

指導資料全般・デジタル教科書については、
こちらのパンフレットにまとめました。

教科書概要

指導書

課題ノート

デジタル教科書

指導資料一覧
周辺教材

筑摩書房版

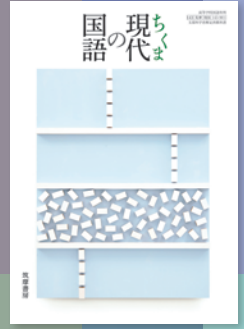
国語教科書



文国 143-901 文学国語 改訂版



論国 143-901 論理国語 改訂版



現国 143-901 ちくま 現代の国語



古探 143-902 古典探究 漢文編 改訂版



古探 143-901 古典探究 古文編 改訂版



言文 143-901 ちくま 言語文化



現国 143-902 現代の国語 改訂版



言文 143-902 言語文化 改訂版

指導資料

デジタル教科書

目次

- ◎ 筑摩書房版国語教科書の特徴…………… 2
- ◎ 筑摩書房版国語教科書の教材の流れ…………… 8
- ◎ 教師用指導資料
- 『学習指導の研究』のご案内…………… 16
- ◎ 準拠課題ノートのご案内…………… 44
- ◎ 指導者用デジタル教科書のご案内…………… 48
- ◎ 指導資料一覧・周辺教材…………… 52

内容解説資料

令和九年度用
27

筑摩書房の国語教科書

編集委員のことば



東京大学名誉教授 安藤 宏

二〇一八年に改訂された学習指導要領で、必修教科目は「現代の国語」と「言語文化」に、選択科目は「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」に分かれました。このうち「現代の国語」と「論理国語」は論理的・実用的な文章を扱い、「言語文化」は古典作品と文学作品、「文学国語」は文学教材を扱うことになっています。これまでの国語とは大きく異なる区分けであったため、現在、教育現場ではさまざまな工夫と努力を強いられているのが現状と言えるでしょう。

情報化社会の中で「実用国語」化への動きが急速に進む中、現在の指導要領はあきらかにこうした流れに沿って作成されています。世にある文章を「論理」「実用」「文学」の三つに区分して科目に分けるという発想も、まさしくこれに深く関連するものと言えます。しかしわれわれ筑摩書房の編集委員会は、「役に立つ」という概念をもっと根本的な所から捉え直したいと考えています。世界の成り立ちを根源から問い返し、異質な世界や他者への想像力を育んでいく「人文知」は「国語」という教科の礎をなすものです。こうした発想に立ち、筑摩書房の教科書は「人文知」を

土台に、相互に有機的なつながりをもって編集され、これまで培われてきた理念とあらたな時代への要請とが、高い次元でミックスされています。情報化社会の中でこそ、功利的なものの方に惑わされることなく、個々の情報の持つ意味を慎重に吟味し、批評していく力が求められるわけで、われわれは教材の選定や編集に当たって、まず何よりもこうした奥深い知性を養成していくことを目標に掲げました。これからの国語教育に向けて、われわれの教科書とともに考え、歩んでいただければ幸いです。

学習指導要領と筑摩書房の教科書

①すべての教科において「主体的・対話的で深い学び」が求められています。

【筑摩書房の教科書では】

- ・生徒の主体性を引き出し、知的好奇心を刺激する教材を厳選しました。
- ・「学習の手引き」には、生徒の主体性を引き出したり、対話によって考えを深めたりすることができる課題を配しました。
- ・単元ごとに「実践」を設け、主体的・対話的で深い学びを導く工夫を示しています。
- ・さまざまな角度からの比べ読み教材を掲載して、深い学びへと誘います。

②「思考力・判断力・表現力等」と「知識・技能」から成る「資質・能力」の育成が求められています。

【筑摩書房の教科書では】

- ・収録された教材と、学習指導要領に示された「思考力・判断力・表現力」および「知識・技能」の項目との関係が一目でわかる一覧表を掲載しました。
- ・すべての単元に扉を設け、それぞれの単元で、どのような「資質・能力」を身につけたいかを示す「単元の目標」を掲示しました。
- ・各教材の冒頭に「視点」を設け、教材のどのような点に着目して学びたいかを示しました。

「この教科書で育成する資質・能力」

資質・能力	1年次	2・3年次
思考力・判断力・表現力等	○「上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める」科目。 ○「書くこと」「読むこと」の2領域。	○「主として」伝統的な言語文化に関する理解」をより深めるため、ジャンルとしての古典を学習対象とする。古典を主体的に読み深めることを通して伝統と文化の基盤としての古典の重要性を理解し、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究する資質・能力の育成を重視した選択科目。
知識・技能	○「読むこと」の教材は「古文」「漢文」および小説・詩歌などの「近代以降の我が国の伝統と文化に関する文章」。	○「読むこと」1領域。 ○教材は主として古典としての古文及び漢文。
言語文化	○「上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める」科目。 ○「書くこと」「読むこと」の2領域。	○「主として」伝統的な言語文化に関する理解」をより深めるため、ジャンルとしての古典を学習対象とする。古典を主体的に読み深めることを通して伝統と文化の基盤としての古典の重要性を理解し、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究する資質・能力の育成を重視した選択科目。
現代の国語	○「実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する」科目。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域。 ○「読むこと」の教材は「現代の社会生活に必要とされる論理的な文章および実用的な文章」。	○「主として」思考力・判断力・表現力等の感性・情緒の側面力を育成する。深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする資質・能力の育成を重視した選択科目。
古典探究	○「読むこと」の教材は「古文」「漢文」および小説・詩歌などの「近代以降の我が国の伝統と文化に関する文章」。	○「読むこと」1領域。 ○教材は主として古典としての古文及び漢文。
文学国語	○「書くこと」「読むこと」の2領域。 ○「読むこと」の教材は「近代以降の文学的な文章」。	○「主として」思考力・判断力・表現力等の感性・情緒の側面力を育成する。深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする資質・能力の育成を重視した選択科目。
論理国語	○「書くこと」「読むこと」の2領域。 ○「読むこと」の教材は「近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要とされる実用的な文章」。	○「主として」思考力・判断力・表現力等の創造的・論理的思考の側面力を育成する。実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする資質・能力の育成を重視した選択科目。

※このほか「国語表現」（他者とのコミュニケーションの側面力を育成する科目として、実社会において必要となる、他者との多様な関わりの中で伝え合う資質・能力の育成を重視して新設した選択科目）があります。

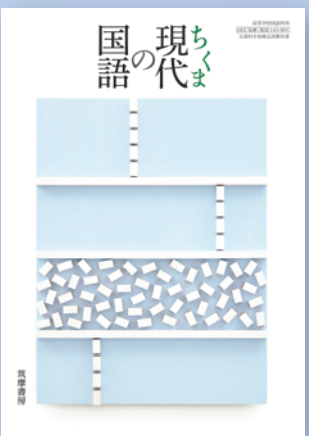
ちくま 現代の国語

現国143-901/A5判・288頁

近現代小説と評論を組み合わせて、論理的・実用的な表現を学ぶことができます。

教材の特徴

- ◎「羅生門」「良識派」「待ち伏せ」「夢十夜」の4本の小説の論理的・実用的な側面に焦点を当てて、教材化しました。小説と、主張の鮮明な評論教材とを組み合わせることで、幅広い論理的・実用的な思考力・判断力・表現力を養うことができます。
- ◎さまざまなテーマやジャンルの教材を横断し、また比較して学ぶことで、より深い探究に導きます。
- ◎基礎的な読解力を養う文章から、現代的なトピックを扱った作品まで、バラエティに富んだ教材を厳選しました。



現代の国語 改訂版

現国143-902/A5判・288頁

メッセージ性が鮮明な評論を豊富に読み解き、論理的思考力を養います。

教材の特徴

- ◎メッセージ性が鮮明な評論を豊富に掲載しました。さまざまなテーマについて、広い視野から論じた評論教材を用いて、論理的・実用的な思考力・判断力・表現力を高めることができます。
- ◎大学入試を意識したトピックや筆者を精選し、質・量ともに充実した評論教材を揃えました。
- ◎長く読み継がれてきた名評論から、今を生きる高校生に触れさせたい新しいテーマの評論に至るまで、高校生の知的好奇心を刺激する文章を厳選しました。



ちくま 言語文化

言文143-901/A5判・288頁

定番の古典教材と、ことばの変遷に着目した現代文教材で、言語文化の一貫性を学びます。

教材の特徴

- ◎日本の「言語文化」を、古文・漢文から近現代まで一貫して学べるように工夫し、とりわけ言葉の変化に注目できる教材を選定しました。
- ◎古典教材（古文・漢文）は定番教材を中心に据え、古典を学ぶうえでの基本を重視しました。
- ◎現代文教材は、近代における先人たちの努力と工夫を、実感できる教材を取りそろえ、言語文化への関心を高めることができます。



言語文化 改訂版

言文143-902/A5判・320頁

定番の古典教材と、近現代小説を含む現代文教材を通して、言語文化の豊かさを学びます。

教材の特徴

- ◎日本の「言語文化」を、古文・漢文から近現代まで一貫して学べるように工夫し、とりわけ文学作品を通して、表現の共通点と相違点を具体的に理解できる教材を選定しました。
- ◎古典（古文・漢文）は、定番教材を中心に据え、古典を学ぶうえでの基本を重視しました。
- ◎現代文は、「羅生門」などの小説や、詩歌・随想など、バラエティ豊かに掲載し、現代に至るまでの日本の「言語文化」の豊かさを、実感できるようにしました。



論理国語

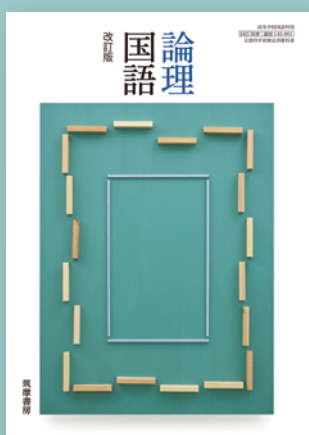
改訂版

重厚な定番教材から、注目のテーマ・著者まで豊富な評論をそろえた「論理国語」の最高峰。

論国143-901 / A5判・448頁

教材の特徴

- ◎ 論理的な思考を学ぶとともに、ことばと人間の本質を深く探究する文章を豊富に採録。
- ◎ 大学入試にも対応する鋭い視点や抽象度の高い思考を身につける、質・量ともに最高峰の評論をそろえました。
- ◎ 長く読み継がれる名評論から、最新のテーマ、話題の著者、近代の評論など、筆者・時代・テーマすべてにわたってバラエティ豊かな教材を通して横断的に、また相互に比較しながら学ぶことができます。



文学国語

改訂版

良質な小説・詩歌から、文学の本質を問う評論・随想まで、文芸に限定しない「人文知」の扉を開く「文学国語」。

文国143-901 / A5判・480頁

教材の特徴

- ◎ 多様なレトリックと豊かな想像力、人間とことばの本質を掘り下げる「文学的な文章」を、文芸作品に限定せずバラエティ豊かに採録しました。
- ◎ 大学入試はもちろん、未来を切り開く、多様なものの見方・考え方を示す文章を意識的に選択しました。
- ◎ 定番の小説・詩歌教材はもちろん、「文学とは何か」について深く思考を巡らせ、議論を深めることのできる随想・評論教材まで幅広くセレクト。



古典探究

古文編／漢文編
改訂版

古典が培う普遍的なことばの力強さと繊細さに目を開かせる、「探究」の名にふさわしい伝統と革新の古典教材。

古探143-901 / A5判・320頁 古探143-902 / A5判・192頁

教材の特徴

- ◎ 古典を学ぶにあたって必須の教材を柱とし、さらに探究を深める工夫を凝らしました。
- ◎ 生徒の興味関心を広げ、先生方の教材選択の幅を広げるために、豊富な教材数を収録しました。
- ◎ 使いやすい古文編・漢文編の分冊構成。



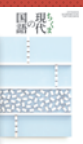
大学入試を見据えてハイレベルな教材を配列 3年間で現代文の重要テーマ・ 入試頻出著者を網羅

現代文評論教材関連表

教材	著者	キーワード	テーマ
『ちくま現代の国語』『現代の国語 改訂版』 1年次	川上弘美	具体と抽象	境界論
・境目	齋藤亜矢	二項対立	芸術論
・サイエンスの視点、	内田 樹	分節化	言語論
・アートとの視点	黒崎政男	メディアと権力	情報論
・ことばとは何か	中屋敷均	進化論、生物多様性	生命論
・デジタル社会	中村桃子	アイデンティティ、構築主義	ジェンダー論
・システムと変異	鷲田清一	心身二元論、自意識	身体論
・ことばがつくる女と男	松村 圭二郎	商品化、コミュニケーション	贈与論
・身体、この遠きもの	清岡卓行	逆説	芸術論
・贈り物と商品の違い	ブレイディ みかこ	社会と共同体、貧困	社会論
・失われた両腕	宇野重規	近代化	デモクラシー論
・誰かの靴をはいてみる	若林幹夫	合理主義、仮説と反証	科学技術論
・「私」時代のデモクラシー	岩井克人	情報社会と差異	経済学
・魔術化する科学技術	伊藤亜紗	認知、感覚、記憶	当事者論
	山田 登世子	物語、豊かさ	時間論
	國分 功一郎	社会契約、主権者	政治論
	小坂井 敏晶	心理、無意識	心理学
	岡 真理	多文化主義、他者、差別	文化論
	吉川浩満	仮説、地球環境	環境論
	西谷 修	西洋中心主義、先住民、歴史認識	コロナリズム論
	村田 沙耶香	物語	物語論
	新井 卓	記憶、当事者、非当事者	歴史論
	隠岐 さや香	近代、普遍	近代論
	大澤真幸	セキュリティと不安	リスク論
『現代の国語 改訂版』のみ	丸山眞男	法と制度	政治思想論
・「私」にはなぜヒーローが必要なのか?	今井 むつみ	類推 (アナロジー)	論理学
・忘却への抵抗	秋田喜美	差異	ファッション論
・「幸福」の概念的変容	河野哲也	網野善彦	歴史論
・リスクと近代社会	細田衛士	持続可能性	環境論
	柴田邦臣	公共圏と親密圏	テクノロジー論
	丸山眞男	法と制度	政治思想論
『論理国語 改訂版』(第一部) 2年次	ドミニク・チエン	自己と他者	コミュニケーション論
・未来をつくる言葉	内田 樹	テクスト	物語論
・物語るという欲望	石井美保	超越性	学問論
・科学の詩学へ	若林幹夫	近代	情報論
・地図の想像力	川添 愛	前提と推論	論理学
・本日は怖い「前提」の話	石田英敬	メディア	メディア論
・「象徴的貧困」に立ち向かうために	更科 功	仮説と検証	論理学
・「〇〇パーセントは正しくない科学	橋爪 大三郎	近代的主体	近代論
・近代の成立——遠近法	三浦哲哉	共生	環境論
・カイロモン	中屋敷均	自立/依存	生物学
・迷惑でいびつな生命	岸 政彦	ヒストリー	社会学
・沖縄戦を聞く	川島慶子	フェミニズム	ジェンダー論
・変貌する聖女	伊 雄大	ジェンダー	論
・男の絆、女たちの沈黙	夏目漱石	日本と近代	近代論
・現代日本の開化	濱口竜介	語りの場	物語論
・物語りについて	今福龍太	ソーリズム	文化人類学
・ファンタジー・ワールドの誕生	日高敏隆	環世界	生物学
・生物の作る環境	湯浅 誠	格差社会	貧困論
・貧困は自己責任なのか	森本 あんり	分断	政治思想論
・ポピュリズムとは何か	船木 亨	生権力	社会学
・トリアージ社会	杉田 敦	ナショナルリズム	政治思想論
・権力とは何か	今井 むつみ	類推 (アナロジー)	論理学
・子どもの言語習得	秋田喜美	差異	ファッション論
・ファッションの現象学	河野哲也	網野善彦	歴史論
・日本の社会は農業社会か	細田衛士	持続可能性	環境論
・資源はなぜ枯渇するのか	柴田邦臣	公共圏と親密圏	テクノロジー論
・ビッグデータ時代の「生」の技法	丸山眞男	法と制度	政治思想論
・「である」ことと「する」こと			
『論理国語 改訂版』(第一部) 3年次	森岡正博	環境倫理学	環境論
・「自然を守る」ということ	野口裕二	アイデンティティ	心理学
・物語としての自己	岡 真理	当事者性	ヒューマニズム
・虚ろなまなざし	野家啓一	問主観性	歴史論
・物語と歴史のあいだ	柳田國男	民俗学	民俗学
・清光館哀史	三木 那由他	権力の不均衡	言語哲学
・自分自身を語るために	榎木野衣	価値	芸術論
・絵画は紙幣に憧れる	大森荘蔵	主観/客観	認識論
・真実の百面相	岩井克人	共同体	経済論
・貨幣共同体	管 啓次郎	クレオール	文化論
・ピジンという生き方	瀬尾夏美	トラウマ	物語論
・聞くものたちの文学、忘却に抗するための会話	尼ヶ崎 彬	身体	身体論
・模倣と「なぞり」	坂口安吾	翻訳	文学論
・ラムネ氏のこと	伊藤谷 登士翁	グローバルゼーション	国際社会学
・難民が問題になるとき	蓮實重彦	対話	思想論
・思考の誕生	福沢諭吉	漢文の近代	啓蒙思想
・主義は広大なるべき事	若桑 みどり	パラダイム	歴史論
・異時代人の目	大澤真幸	構造	社会学
・巫女の視点	木村 敏	対象化	認識論
・ものごと	田中 祐理子	パラダイム・シフト	医学
・「病氣」の向こう側	佐伯啓思	資本	贈与論
・過剰性と稀少性	西谷 修	バースペックタイプ	時間論・認識論
・記憶の満天	中井久夫	批判	戦争論
・戦争と平和についての考察			

3年間で
74本
評論
『ちくま現代の国語』

3年間で
75本
評論
『現代の国語 改訂版』



定番から最新まで

小説・詩歌にとどまらず、 文学評論・随想まで、真の国語力を 鍛える教材を豊富に収録

現代文評論・文学評論教材関連表

『ちくま現代の国語』『現代の国語 改訂版』 1年次

教材	著書	キーワード	テーマ
・境目	川上弘美	具体と抽象	境界論
・サイエンスの視点、アートの視点	齋藤亜矢	二項対立	芸術論
・ことばとは何か	内田 樹	分節化	言語論
・デジタル社会	黒崎政男	メディアと権力	情報論
・システムと変異	中屋敷均	進化論、 生物多様性	生命論
・ことばがつくる女と男	中村桃子	アイデンティティ、 構築主義	ジェンダー論
・身体、この遠きもの	鷲田清一	自意識、 自身体論	身体論
・贈り物と商品の違い	松村圭一郎	商品化、 コミュニケーション	贈与論
・失われた両腕	清岡卓行	逆説	芸術論
・誰かの靴をはいてみる	ブレイディみかこ	社会と共同体、貧困	社会論
・〈私〉時代のデモクラシー	宇野重規	近代化	デモクラシー論
・魔術化する科学技術	若林幹夫	合理主義、 仮説と反証	科学技術論
・マルジャーナの知恵	岩井克人	情報社会と差異	経済学
・記憶する体	伊藤亜紗	認知、感覚、記憶	当事者論
・贅沢の条件	山田登世子	物語、豊かさ	時間論
・来るべき民主主義	國分功一郎	社会契約、主権者	政治論
・主体という物語	小坂井敏晶	心理、無意識	心理学
・開かれた文化	岡 真理	多文化主義、 他者、差別	文化論
・人新世における人間	吉川浩満	仮説、地球環境	環境論
・名づけと所有	西谷 修	西洋中心主義、 先住民、歴史認識	コリアリズム論

『ちくま現代の国語』のみ

・私たちにはなぜヒーローが必要なのか？	村田沙耶香	物語	物語論
・忘却への抵抗	新井 卓	記憶、当事者、 非当事者	歴史論
・「幸福」の概念的変容	隠岐さや香	近代、普遍	近代論
・リスクと近代社会	大澤真幸	セキュリティと 不安	リスク論
・羅生門	芥川龍之介		
・良識派	安部公房		
・待ち伏せ	ティムオブライン／ 村上春樹 訳		
・夢十夜「第一夜」「第六夜」「第七夜」	夏目漱石		

『現代の国語 改訂版』のみ

・兎が自分でつづつて語る生活の話	E.シントン／ 内山賢次 訳	帰納と演繹	推論
・ポスト真実時代のジャーナリズム	国谷裕子	メディアリテラシー、 ポヒュリズム	メディア論
・会話と対話	長田 弘	公共圏と親密圏	コミュニケーション論
・未来は存在しない	野矢茂樹	前提と命題、 真と偽	論理学
・瓦を解かないこと	堀江敏幸	メタファーと メトニミー	レトリック

『文学国語 改訂版』（第一部） 2年次

教材	著書	読解の窓
・アイオワの玉葱	長田 弘	自分を繋げることばの役割
・情報の彫刻	原 研哉	メディアと身体
・異なり記念日	齋藤陽道	コミュニケーションのモード
・実体の美と状況の美	高階秀爾	発見された「日本の美」
・メディアと倫理	和田伸一郎	映像メディアと編集
・真ん中なる／ならざる風景	李 琴峰	マイノリティとマジョリティ
・バイリンガリズムの政治学	今福龍太	ポストコロナリズム・越境
・記号論と生のリアリティ	立川健一	認識・言語・分節化
・金縷いの景色	藤原辰史	破壊と再生
・死者の声を運ぶ小舟	小川洋子	亡くなった人たちの声に耳を 傾ける
・空と風と星と詩	茨木のり子	韓国の文化・文学
・建築論ノート	松山 巖	引用
・プラスチック膜を破って	梨木香歩	自分の殻を破る
・沈黙の種子	小池昌代	日常のことば、詩のことば
・化物の進化	寺田寅彦	パラダイム・ソフト
・文学の仕事	加藤周一	アイデンティティの二側面

『文学国語 改訂版』（第二部） 3年次

・山月記	中島 敦	小説の中の会話
・神様	川上弘美	書き換えられたデビュー作
・こころ	夏目漱石	テクストの細部
・アイスクリーム熱	川上未映子	小説の中の人間関係
・鞆	安部公房	小説と現実
・捨てない女	多和田葉子	小説の創造力
・魂込め	目取真 俊	沖縄文学
・言葉のあいだの言葉	柴崎友香	異質な「他者」への想像力
・小説とは何か	三島由紀夫	柳田國男と民俗学
・陰翳礼讃	谷崎潤一郎	日本文化論
・確かにそういう時間があったというこ と	堀江 菜	「癒やし」と芸術
・日本文化私観	坂口安吾	美について語る
・隠れん坊の精神史	藤田省三	遊戯・子ども
・無常ということ	小林秀雄	偉大な思索者・小林秀雄
・骨とまぼろし	真木悠介	異なる言語、異なる文化の魅力
・ある（共生）の経験から	石原吉郎	想像する力
・鈴虫の間、ぼくの六畳間	アーサー・ ピナード	空白の美学
・寛容は自らを守るために不寛容に 対して	渡辺一夫	二者択一の罫
・不寛容になるべきか	大江健三郎	ことばと文学
・チャンピオンの定義		

・舞姫	森 鷗外	「舞姫」と日本の近代
・女の子たち風船爆弾をつくる	小林エリカ	事実の力——ノンフィクション
・水仙	太宰 治	「自己」をめぐるドラマ
・王国	津村記久子	物語の持つ力
・藤野先生	魯 迅	近代日本とアジア
・砲撃のあとで	三木 卓	記憶と記録

『学習指導の研究』のしく案内

教師用指導資料

目次

◎ 単元の解説	17
◎ 教材のねらい	18
◎ 学習指導の展開例	20
◎ 出典／著者・作者解説／作品解説	21
◎ 要旨／主題	22
◎ キーワード／作品解説・作品鑑賞	23
◎ 意味段落の要旨	24
◎ 全体の構成図	25
◎ 叙述と注解／学習のポイント／発問例／脚問の解答例	26
◎ 「学習」の解説と解答例	28
◎ 参考資料	30
◎ デジタルコンテンツ／参考文献	31
◎ 品詞分解（古文）	32
◎ 総ルビ付き本文／現代語訳（古文）	33
◎ 総ルビ付き訓読／現代語訳（漢文）／叙述と注解／発問例／脚問の解答例	34
◎ 評価問題	36
◎ プリント集	38
◎ オンライン指導資料／漢文編集システム	40

特色1 具体的な授業の流れがイメージできるように「学習指導の展開例」や「板書例」を例示、また「発問例」の難易度なども示しました。

特色2 同じ学年を担当される先生方の間での「共通基盤」を示すガイドとなるように、「教材のねらい」で、指導のポイントをコンパクトにまとめました。

特色3 評価問題例には、「基本」「標準」のほか、「発展」として、教科書掲載の教材以外の文章も用意しました。

特色4 教科書掲載の「実践」の解説や、探究活動例に関する指導資料をまとめました。

特色5 授業に役立つ資料やワークシート、評価例などを「オンライン指導資料」のサイトからダウンロードできます。

特色6 『ちくま現代の国語』小説教材の指導資料は、小説の読解指導についても詳細に解説しています。

◎単元の解説

教科書編集委員が、単元設定の意図と、教材採録の意図を解説しました。

単元の解説

第6章 「根拠」から「主張」へ

単元のねらい

第6章では、ここまでの「読む」単元での学習を踏まえ、もう一段読解力や思考力を深めるための文章を取り上げた。

すぐれた評論は、日頃あたりまえのこととして見過ごしていることさらに目を向け、改めてその意味や意義を明らかにしてくれる。読み手にとってそうした文章は、はじめはそれを論じる意味がピンとこないかも知れないが、議論全体を理解できた時には自分の思考やその前提が明晰になっているのを感じるはずである。

教材編集の意図

若林幹夫「魔術化する科学技術」は科学と魔術という、合理的観点からは正反対に見えるものが、現代社会の中で結びついてしまう様子が論じられる。「便利だが理解できない」ものを自在に駆使する今の生徒の自己認識の中に、実際にこうした魔術的なイメージが存在するのか、またその問題点は何か、彼ら自身に良く考えさせたい。

野矢茂樹「未来は存在しない」で印象的なのは、単にその論理性だけではなく、自分自身の直感に反する結論を諸々として受け入れるのではない思考の粘り強さである。論理的に考え抜くとはどういうことかをユーモラスに描いたこの文章から、評論を読むことの意味と可能性を感じてもらいたい。

岩井克人「マルジャーナの知恵」は資本主義における、差異が利潤を生み出すという基本原理をわかりやすく説いた文章である。筆者の

魔術化する科学技術／未来は存在しない／マルジャーナの知恵

指摘する情報の商品化とは、まさに生徒を取り囲む現代の社会状況そのものである。

この単元で育成する資質・能力

【知識・技能】

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

オ 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解すること。

(2) 情報の扱い方に関する事項

ア 主張や論拠など情報と情報の関係について理解すること。

オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。

(3) 我が国の言語文化に関する事項

ア 実社会との関わりをかんがえるための読書の意義と効用について理解をふかめること。

【思考力・判断力・表現力等】C読むこと

ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。

資質・能力

学習指導要領に対応した各単元の「資質・能力」を掲載しています。

第6章

魔術化する科学技術

若林幹夫

教科書 128
134
頁

現代の国語 2

教材のねらい

社会学者による科学論である。価値中立なものと考えられてきた科学の知が、技術と結びついた時にどのような影響を社会に及ぼすかを科学以前の知・技術と対比しながら論ずる本格的な評論である。各段落の冒頭に注目させ、接続詞の働きを確認しながら段落相互の関係を捉えさせるとともに、対比を正確におさえさせることで、論の構造を理解させる。

①段落相互の関係を整理して、論の構造を理解させる。

②科学的な知の特徴を整理させた上で、魔術や呪術と近代科学技術を対比しながら、科学技術の発展が社会にもたらした影響について理解させる。

③現代社会における科学技術の問題点について考えをまとめさせる。

◎授業の要所

「魔術化する科学技術」は、原始や古代の人類にとっての「技術」であった呪術や魔術と、現代人にとっての「科学技術」を対比することで、科学技術の性質を明らかにし、それが現代社会にもたらす問題を指摘した文章である。対比や具体例を用いつつ、段階を踏みながら確実に論を進めていく過程を、叙述を丁寧に追うことで理解させたい。

◎主題

理論的な仮説に過ぎない科学的な知が「技術」と結びつき、合

授業の要所

教材の指導のポイントを簡潔に示しました。「何」が書かれた文章なのか、を示しています。

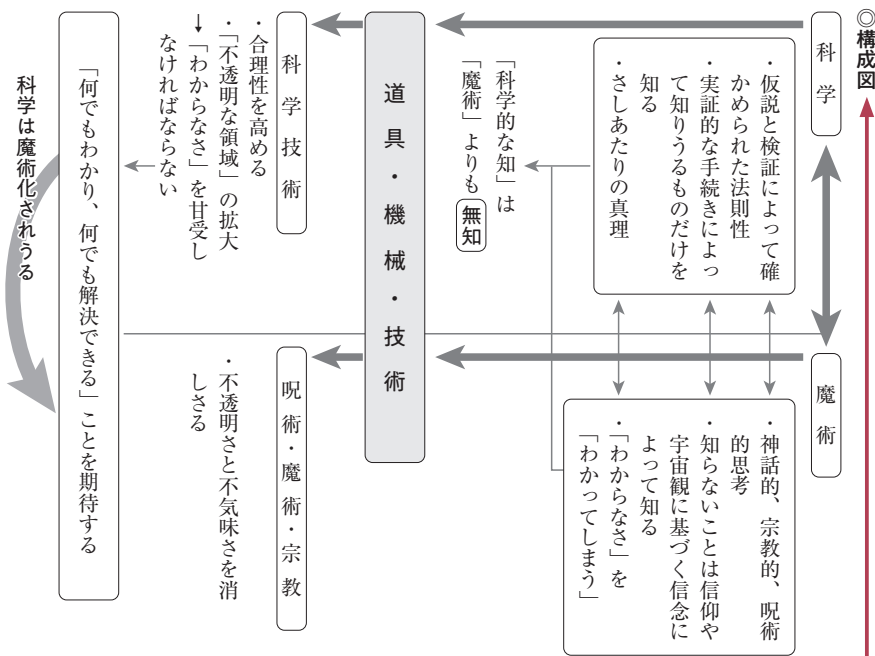
理性を高めることで、私たちの社会は明晰で透明な理解可能性を手に入れたように見える。しかし実際には、科学技術の発展と高度化は、不透明で理解不可能な領域を生み出している。科学技術を、魔術のように全てを理解可能にする絶対的なものとして捉えてはならない。

◎注目する表現

科学的な知は「無知」である。
▼だから、科学に対する私たちの常識的な理解にはいささか反するかもしれないが、科学的な知は、宗教や神話や魔術や呪術よりも「無知」なのだ。(一三〇・一〇)

着眼点 ここまでの叙述を丁寧に追わせることで、「科学的な知」とは理論的な仮説であり、実証的な手続きによって確認できることに限定された知であることを理解させる。その上で、世界図の具体例をもとに、神話的・宗教的・呪術的思考にもとづく知と対比しながら、科学的な知には、知りえないものがあるという意味で「無知」であることを理解させる。この科学の知についての認識が、後の論の展開を支える柱となっているので、確実におさえさせたい。

科学技術が生み出す不透明で理解不可能な領域	▼私たちの社会は科学技術によってこれまでのどんな社会よりも明晰で透明な理解可能性を手に入れたように見えるけれど、そのことによって同時に、これまでのどんな社会よりも巨大で強力な力とともにある不透明で理解不可能な領域を抱え込んだのだ。(一三二・二)
科学技術の発展と高度化が世界を予測可能で操作可能なものにした一方で、「不透明で理解不可能な領域」を生み出す、という二つの側面をもつことを理解させる。	着眼点 科学的な知識が技術と結びつくことで現代社会にもたらしたものを、「技術としての呪術や魔術、宗教」がもたらしたものと対比させ、「不気味さ」と「合理性」をキーワードとして整理させる。科学技術の発展と高度化が世界を予測可能で操作可能なものにした一方で、「不透明で理解不可能な領域」を生み出す、という二つの側面をもつことを理解させる。
魔術化する科学	▼そう、現代の社会で科学は魔術化されるのである。(一三三・九) 着眼点 本論の題名も「魔術化する科学技術」であり、これが主張の部分となっている。一見すると矛盾するように思われる科学が魔術化されるという意味について、この前の段落の道具や機械や装置の具体例を踏まえて理解させる。科学技術を絶対視することがどのような問題を引き起こすかについても具体的に考えさせたい。



構成図

文章の構成を図示しています。

注目する表現

教材の中の注目すべき表現について一覧表で示しています。

3 魔術化する科学技術

◎学習指導の展開例

各教材の「展開例」と、「指導目標」「学習活動」「指導上の留意点」及び「時間配分」を表形式でまとめました。

学習指導の展開例		展開例	指導目標	学習活動	指導上の留意点
展開一	導入	展開例	<ol style="list-style-type: none"> 教材の話題に関心をもち、心をもちたせる。 本文特有の言葉遣い、用語を理解させる。 意味段落に分け、全体の構成を把握させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 「科学」的な理論で知っているものを挙げる。 「科学」と「魔術」のちがいにについて考える。 「魔術」「呪術」の思想的な特徴について理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 理科などの科目と連携を図りながら「科学的」なるものを理解させる。 「科学」と「魔術」の対称性を示す。 しかしながらこの二つが結論において収斂していくことを念頭に置いて指導する。
1時間目			<ol style="list-style-type: none"> 道具と「科学」の関連を押さえる。 	<ol style="list-style-type: none"> 前時限の確認をする 道具や機械の「科学」的側面を指摘する。 	<ol style="list-style-type: none"> 「科学」と「魔術」のちがいについて、指名により答えさせる。 道具や機械が「合理的」であり、「科学」と結びつくことを考察する。
2時間目	1時間目			<ol style="list-style-type: none"> 指名により音読する。 全体を意味段落に分ける。 ひとまず「科学」とはどのようなものかを簡易書きでよいのでノートにまとめる。 「魔術」「呪術」の思想的な特徴をノートにまとめる。 	<ol style="list-style-type: none"> 慣れないカタカナ語や人名(「リスク」「コスト」「ハイデガー」)に注意させる。 三つの段落に分けさせる。作業をさせたあとに、指名で発表させる。 本文における「科学」の厳密な意味をしっかりとらえさせる。 本文掲載の世界図に注意を喚起させながら「魔術」「呪術」が世界を「理解する」方法をまとめさせる。
2時間目	1時間目			<ol style="list-style-type: none"> 「科学」と「魔術」の思考上の共通点を挙げる。 日常生活における「科学」＝「魔術」的側面を具体的に挙げる。とからめて考える。 	<ol style="list-style-type: none"> 「科学」が「究極の真理」であるかのように受け止められている点を喚起させる。 インターネットや携帯電話への依存など。発展的に展開してもよい。

時間の配分

実際の授業時間に即した授業計画を立てやすいように3パターンの時間配分を示しました。それぞれの時間配分によって、どの展開までで区切るのかが、一目瞭然です。

◎出典／著者・作者解説／作品解説

各教材の出典と、著者・作者、作品に関する情報をまとめました。

出典

教材の出典と、教科書本文との異同を記しました。

出典
本文は若林幹夫「社会学入門一歩前」(NTT出版 二〇〇七年)によった。

同書はそのタイトル通り社会学の入門書として位置づけることが可能だが、学問的な入門書とはちがひ、日常的な切り口を話題とする点で、より実践的な入門書となっている。例えば「カリスマ」が誕生するのはいつだったかのようなシステムがあるのか(第一〇章「カリスマ、独裁者」、歌をうたうとはどのような行為なのか(第四章「うたっているのは誰?」)といった身近な話題に本書では言及されている。大衆社会の欲望から個と社会を媒介とする身体に至るまで、本書がカバーする領域は入門書ながら広範囲だ。巻末には周到な「読書案内」も付せられており、本書を読み終えた読者が次のステップへ無理なく関心が深められるように配慮されている。そのセレクションも丸山圭三郎、蓮實重彦、柄谷行人というようにユニーク極まりない。

「奥の細道」指導資料より

出典

本文は、「日本古典文学全集」第四一巻(小学館 一九七二年)によった。同書は、素龍筆芭蕉所持本(西村本)を底本とする。

作品解説

『奥の細道』は、元禄二(一六八九)年三月二十七日に江戸を発ち、八月下旬大垣に着くまでの、五か月余、道程約六百里(約二千四百キロ)に及ぶ旅の紀行文である。芭蕉は四十六歳、その人生観・自然観が深まり、句境も円熟していた時期のもので、推敲を重ねられた文章は、日本文学の流れの中での一巨峰を形づくる作品である。書名は、

した。また第三段落にも一部省略した箇所がある(省略部分は「参考資料1」を参照)。

著者解説

若林幹夫(わかばやし・みきお) 一九六二(昭和三七)年、東京都生まれ。社会学者。一九八六年、東京大学教養学部相関社会科学分科卒業。一九九〇年、東京大学大学院社会学研究科博士後期課程中退。東京工業大学助手、筑波大学講師、同助教授、教授を経て、二〇〇五年より早稲田大学教育・総合科学学術院教授、博士(社会学)。

主に『熱い都市 冷たい都市』(弘文堂 一九九二年)といった都市論を出発点としながら徐々にメディア論へと研究の領域を広げている。『地図の想像力』(講談社選書メチエ 一九九五年)といった地図論、『郊外の社会学』(ちくま新書 二〇〇七年)といった郊外論、

著者・作者解説

著者・作者に関する詳しい解説です。

「魔術化する科学技術」(若林幹夫) 指導資料より

作品解説

古典に関しては、作品そのものについても詳しい解説を加えています。

全体は先述「奥の細道」と「読書案内」と「読書採録」(一〇九〜一一一)冒頭の直前にや機械、技術前には「透明」(一一三・一六)それぞれ付されてなお本文第

要旨

生徒に要旨をまとめさせる場合には以下の点に注意させたい。

本文は「科学」と「魔術」を対比して論じたものである。しかしそれらは二項対立的に導かれてはいるが、結論部においては「科学」そのものが「魔術」化した思考回路と結びつけられている。つまり二つは対立する思考回路に見えながらも、現代の「科学」を考えてみる場合、それは十分に「魔術」的である、というのが筆者の結論である。科学技術が生み出す「道具」の便利さを手にながら、それがどのような仕組みで動いているのかを理解することのないわれわれ現代人はまさしく「魔術」の領域の住人なのである。

◆二〇〇字

科学とは実証性と反証可能性によって明証性を持つものと考えられる。それゆえ提示するものは否定可能な「さしあたりの真理」に他ならない。これに対して神話的、宗教的、呪術的思考は科学的に「知りえないもの」に対しても信念と想像力によって「知ること」が可能となる。科学的知はこれを誤謬として退けようとするが、合理化した現代社会においてはその科学自身が実はすべてを説明できる魔術化した思考として存在しているのだ。(一九七字)

「魔術化する科学技術」(若林幹夫)指導資料より

「待ち伏せ」(ティム・オブライエン／村上春樹 訳)指導資料より

要旨

評論教材は要旨を示しました。生徒に要旨をまとめさせる際のポイントも併せて解説しました。

主題

小説教材は主題を示しました。主題を読み取るポイントも併せて解説しました。

主題

小説の主題をまとめるとは、その作品世界の内実を捉えることである。その作品から抽象化したメッセージを読みとり、それをまとめるだけでは生徒にとつてあまり意味がないことのように思われる。例えば本作品の主題を「人を殺すという行為を強いる戦争という極限状況の恐ろしさ」とまとめても、作品を理解したとは言いがたい。あくまで作品世界に沿った内容をまとめさせたい。

本作品の主題は「私」のあり方にある。そのためには、作品構造に着目させ、作中人物「私」と語り手「私」の意識を捉えさせる指導が必要である。

第一には作中人物「私」が戦場で若者を殺した理由とそのときの心情を確認させたい。「私」が手榴弾を若者に投げたのは、恐怖心によるものである。それは「私」が意識的に選択したものではなかった。それを踏まえ、第二には現在語っている「私」が自分の行為をどのように考えているのか、そしてなぜ語っているのかを捉えさせたい。自分を戦争の話を書き続けている作家であると語っていること、「今でもまだ、私はそれを整理し終えてはいない」と語っていることから、

◆二〇〇字

若い兵士を不必要に殺してしまった主人公の、自分でもその行為に及んだ理由が自分でもつかめない苦悩と、当時、自分が置かれていた状況やその時の心理状態を振り返ることによって、自分の意志を超えて、身体的、感覚的に振る舞うもう一人の自分を見つめようとする姿を描いている。また、もう一人の自分の正体を解き明かすことで、一度失った自分自身を取り戻そうとするが、それが果たせない不安と困惑をも描いている。(一九四字)

◆一〇〇字

兵士を不必要に殺した主人公の、自分でもその理由がつかめない苦悩と、当時、自分が置かれていた状況や心理状態を振り返りながら、自分の意志を超えて、身体的、感覚的に振る舞うもう一人の自分を見つめる姿を描く。(二〇〇字)

◎キーワード／作品解説・作品鑑賞

評論教材の重要な言葉は「キーワード」で、教材研究の中心点については「作品解説」「評論」「作品鑑賞」(小説・古典)で解説しました。

キーワード

◆逆説

「逆説」は「パラドックス」の訳であるが、数学や論理学では、妥当に見える推論から、論理的な矛盾を含んだ結論が得られることをさす。それに対して、一見すれば、直観的には受け入れたい推論ではあるが、結局のところは矛盾していない結論を得ることを「擬似パラドックス」と呼んでいる。一般的に言うパラドックスとはこれをさすことが多い。そういう意味では、強調の一種であり、レトリックとも言える。

前者には、「クレタ島人は言った。『すべてのクレタ島人は嘘つきである。』」という文章が該当する。クレタ島人が嘘つきならば、クレタ島人である発言者の言ったことは嘘になるはずであるが、そうなる、クレタ島人は嘘つきということにならない。クレタ島人が嘘つきでない、クレタ島人が言ったことは真実になるわけだが、そうなる、クレタ島人は嘘つきになる。この論理的な矛盾を抱えた文章がパラドックスである。

後者の例に当てはまるのが本文の例である。両腕がないことによつてヴィーナスは完全な姿になつたということを、作者は、「逆説を弄しようとしているのではない。これはほくの実感なのだ。」(一四〇・一三)と言っている。つまり、部分がない方が完全であるという、一見すれば直観的に受け入れたい逆のことを言つて、実は強調したいことがあるのではなく、これが本音であるというのである。つまり、ここでは「逆説」は、弄するものであり、一見、逆のことを言つて、他のことを強調するレトリックであるというニュアンスで用いられている。その他にも、単に、「逆に」「反対の視点から見れば」のような使

われ方や、「矛盾」「反対」「葛藤」「ジレンマ」という意味で用いられていることも多く、文脈によって判断することが求められている。

作品解説

この作品は、「手の変幻」という評論集に収められている。この中で清岡卓行は、美術品をはじめ、写真、映画、詩等に登場する「手」を取り上げ、それぞれの表情の変化に注目し、「手」の持つ象徴的な意味とその重要性を作品に即して具体的に批評している。その中で、この「失われた両腕」は特異な位置にある。なぜなら、説明すべき手(腕)がこのヴィーナスには欠落しているからである。清岡が手が重要であると主張すれば主張するほど、その手が欠落している「ミロのヴィーナス」は、芸術作品として不完全なものになるはずなのだが、この評論ではその重要な腕がないことがすばらしいということになっている。この評論のヒミツはここにある。

「ミロのヴィーナスを眺めながら、彼女がこんなにも魅惑的であるためには、両腕を失っていないなければならないのだと、ほくはふとふしぎな思いにとらわれたことがある。」(一四〇・一)でこの文章は始まるのだが、ここにあるのは、「ミロのヴィーナスは不完全なのに完璧である。両腕が欠落していても魅惑的な美を有している。」という不思議な実感である。この実感を論証するためにこの評論は書かれたと言つてよい。最も重要な腕がないのに完璧であることの矛盾を論証するのであるから、多少の強引さがこの評論に漂っていることが否めないのはそのためである。しかし、評論の展開、組み立てとして、また、結論への導き方を学ぶという意味では面白い教材であるとも言える。論理の展開を具体的に見ていこう。まず、腕があることよりも欠落

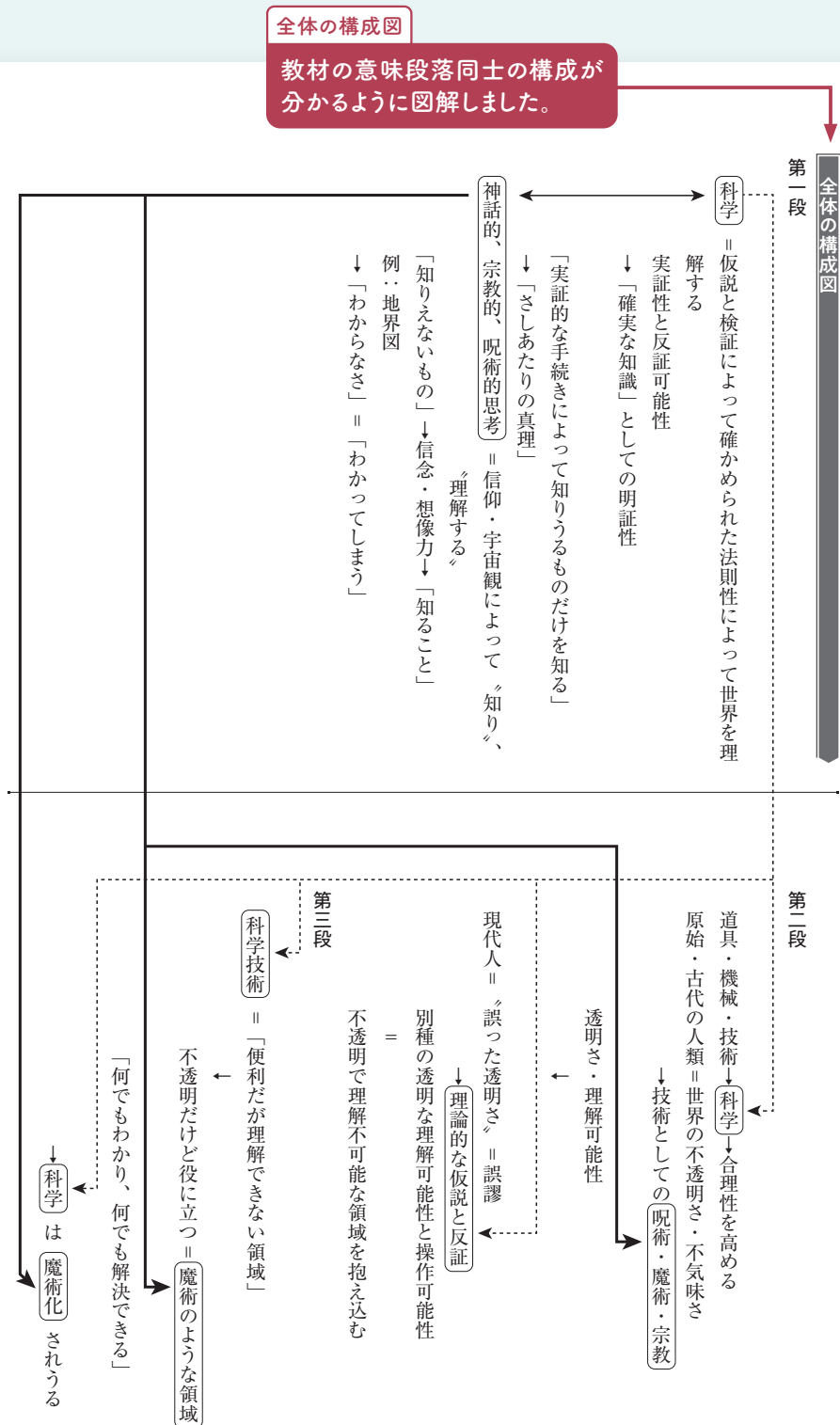
第三段	第二段	第一段	段落
<p>一三三・六（そつだとすれば私たちは）、つ終わり</p>	<p>一三〇・一四（道具や機械）、一三二・五（理解不可能な領域を抱え込んだのだ。）</p>	<p>初め、一三〇・一三（「わかってしまう」のである。）</p>	ページ・行
<p>魔術化する科学技術 現代の私たちは透明な理解可能性を獲得しているとはいいがたく、現代の社会が個々の人々には見渡すことの出来ない不透明さの科学と技術の上に立っていることがわかる。このような中で人は「わからなさ」を受け入れられなくなり、「何でもわかり、何でも解決できる」といった魔術的な思考を科学の中に見いだすことになるのだ。</p>	<p>道具や機械と不透明性 道具や機械や技術は科学と結びつき合理性を高めていく一方で、原始古代の人類にとって不透明な世界はそれを消し去る技術として魔術が必要とされていた。現代人にとっては魔術を科学技術に置き換え透明さを獲得していったが、その反面予想することが出来ない不透明性も同時に抱え込むことになった。</p>	<p>科学と宗教 科学とは「実証的な手続きによって知りうるものだけを知る」という知のあり方であり、また「究極の真理」を指し示すことのない「さしあたりの真理」である。それに対して神話的、宗教的、呪術的思考は「知りえないもの」に対しても信念と想像力によって「知ること」ができてしまう。それゆえ科学は宗教よりも無知なのである。</p>	段意

意味段落の要旨

意味段落の小見出しも併せて示しました。

◎全体の構成図

現代文教材は、各教材の構成を段落ごとに図示しました。



◎ 叙述と注解／学習のポイント／発問例／脚問の解答例

文脈に即した語句の意味を示しました。また教材の導入や段落ごとのポイントも示しています。教科書の脚問の解答例と、授業や定期テストに利用できる発問例を示しました。難易度を一目でわかるように示しています。

叙述と注解・学習のポイント

導入

- ① ヒーローとはどのような存在であるか考えさせる。
- ② 幼少期から現在にいたるまでに、どのような「ヒーロー」像を抱いていたかまとめさせ、成長に応じてヒーロー像がどう変わったか考えさせる。
- ③ 性別・種族・存在形態を問わない、個人の理想像としての多様なヒーロー像をイメージさせる。

※第一段（初め〜11・7） 【二〇ページ】

- 1 初恋より早く、人間の成長段階において、理想像への憧れが恋愛感情よりも早く芽生えていることを示唆している。
- 1 ヒーロー 英雄。主人公。華々しく活躍することで、人々の敬慕の対象になる存在。アメリカの神話学者ジョゼフ・キャンベルは、世界各地の神話を収集・分析し、英雄が冒険に出る神話には「英雄が慣れ親しんだ世界から旅立ち、そこでいくつもの試練を乗り越え、宝（霊薬）を手にして再び日常へと帰還する」という共通のパターンがあると見出した

が、これは小説、映画、ゲームなど多くの「物語」の基本構造として取り入れられている。映画監督ジョージ・ルーカスが「スター・ウォーズ」旧三部作（一九七七〜八三年）に適用して大成功を収めたことは広く知られている。キャンベルは、その著書『千の顔を持つ英雄』において、「英雄の旅」を、自分が将来こうありたいと思える状態、生きる上での理想像に出会っていく内面の旅（ビジョン・クエスト）であると説明している（「キーワード」参照）。

2 「男」を意識した。ここでの「男」は、リアルな恋愛対象としての男性ではなく、自分自身や身近な人々とは全く異なる存在のことを示唆している。

4 兄が集めていた少年漫画の主人公 具体的な作品名や登場人物名は本文中に出てこないが、この「少年漫画の主人公」は、北条司による漫画『シティハンター』の主人公・冴羽獠のこと。『シティハンター』は『週刊少年ジャンプ』（集英社）誌上において一九八五年から一九九一年にかけて連載された。村田は二〇一九年、劇作家・松井周との対談で、「シティハンター」が好きで」と明かしている。

5 背中が大きくて、繊細な指で銃を扱う、大人

発問例・脚問の解答例

【二〇ページ】

- 発問 あなたが考える「ヒーロー」のイメージを挙げてみよう。
- 答 正義の味方、格好いい、強い、頼もしい、近寄りたくない、など。
- 解説 導入の発問であるので、イメージを膨らませるにとどめればよい。生徒同士で共有することで、イメージの多様性に気づかせたい。

- 発問 「初恋より早く」（1行）という表現には、どのような意味が込められているか。
- 答 恋愛感情よりも先に、人としての理想像への憧れが芽生えた、という意味。
- 解説 「恋」という語を使いながら、実はそれを超えた感情を描いている点に注目させる。

- 答 「その「格好いい」には、一人一人、違った感情が込められていた」（11行）とあるが、それぞれの抱いた「感情」はどのようなものか。
- 解説 「恋」という語を使いながら、実はそれを超えた感情を描いている点に注目させる。

- 発問 「その「格好いい」には、一人一人、違った感情が込められていた」（11行）とあるが、それぞれの抱いた「感情」はどのようなものか。
- 解説 「恋」という語を使いながら、実はそれを超えた感情を描いている点に注目させる。

重要語

教科書の各ページに示してある「重要語」については、マークで示しています。

※第三段（11・11〜13・6） 【二三ページ】

- 11 特権 重要語 特定の人・身分・階級だけにあらかじめ与えられている、他に優越した権利。
- 12 大人にならばなるほど 社会や現実の厳しさ、理不尽さに直面した時にこそ、自己の理想や規範としてのヒーロー像の重要性が増すのである。「彼に恥じない自分でありたい」という思いが、それぞれの倫理を守る場合がある。
- 14 大人の女性が沢山いる 筆者の周囲の女性たちの様子を表すと同時に、社会においてマイノリティーになりがちな女性の方が、ヒーローを必要としていることを示唆する。「彼がいるから生きていける。」（16行）という言葉は、切実な現状を表しているともいえる。
- 17 原動力 重要語 活動を起こす基となる力。ここでは、現実を生きる上での内なるエネルギーやモチベーションを示す。

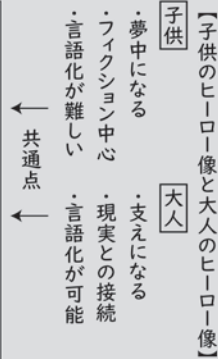
【二三ページ】

- 2 想いを捧げている 第二段での「清潔な宗教」（11・4）に通ずる表現。大人の女性のヒーローに対する純粹な感情を表している。
- 3 恋をしない時期はあっても、私の中からヒーローが消えた季節はなかった 相手に関係性を求める恋とは異なり、自らの理想を投影す

るヒーローの存在は、自己を見失わずに生きるためのエネルギーとなっていたことを示す。

4 物語の中でも現実世界でも 「物語」が先に記されていることからわかるように、ヒーローとは自らの価値観が現実を侵食されないための理想像であり、現実から切り離されたフィクションにその姿を見出すことが多い。もちろん、現実世界に自らの生き方のロールモデルとなる存在がいれば、それがヒーローとなる。

板書例



第三段の要点

- ① ヒーローが子供の憧れだけの存在ではなく、大人になるにつれヒーロー像が変化することを確認させる。
- ② 大人にとってヒーローの存在が、理想であると同時に、現実を生きるため

発問例・脚問の解答例

難易度は、「マークなし」易しい→「♦」やや難しい→「♦♦」難しいまで3段階で示しました。

板書例

クラスごとで先生が違ってても、ここは共通して押さえない、という板書例を示しました。

学習

1. 「第一夜」「第六夜」「第七夜」それぞれに題名と副題をつけなさい。

- 【解答例】
 第一夜……百年後の女
 第六夜……明治の運慶
 第七夜……どこへ行くかわからない船

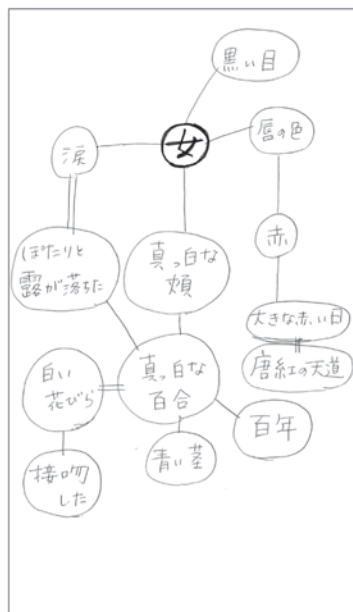
理解

1. 「第一夜」「第六夜」「第七夜」それぞれの文章で効果的に使われていることや言い回しをノートに書き出しなさい。その上で、それらの情報を分類・整理し、それぞれの文章の内容を、イメージマップを使って表現しなさい。

【解答例】

- ・効果的に使われていることばや言い回し
- 第一夜……色（白、赤、唐紅、黒、青）・象徴的なもの（真珠貝、星の破片、真っ白な百合）
- 第六夜……時間（鎌倉時代、今時分、明治、今日まで）・人物描写（運慶、車夫、帽子をかぶらない男、若い男）
- 第七夜……色（青、蘇芳、紫、真っ白、白、黒）・人物描写（船の男、異人の乗り合い、更紗の洋服を着た女、甲板で話しかけてきた異人、サロンの男女）

・イメージマップの例



言語活動

1. 〈構成〉や〈理解〉を踏まえて「夢十夜」の魅力を紹介するキャッチコピー（広告文）を作ってみよう。

【解答例】 省略

【指導上の留意点】「キャッチコピー」とは、伝えたい相手の注意を惹きつける短い一文のこと。ワークシートも利用し、〈構成〉や〈理解〉の内容をうまくキャッチコピーにつなげさせたい。

2. 1で作ったキャッチコピー（広告文）に写真や画像などを加えて、「夢十夜」を紹介するスライドを作成してみよう。また、スライドを作成する際には、どのような場で誰に向かってその魅力を伝えるのかを具体的に設定してみよう。

【解答例】 省略

【指導上の留意点】イメージに合わせた写真やイラストを使い、文字

「学習」の解説と解答例

『ちくま 現代の国語』の小説教材については、教科書の「学習」の解説と解答例だけでなく、『言語文化 改訂版』に掲載した同教材の「学習」の解説と解答例も掲載しています。

の書体や配置などを意識することで、受け手の印象に残るデザインとなる。視覚的に惹きつけるものとなるよう工夫させたい。

【参考】次の「学習の手引き」は、『言語文化 改訂版』に準じた手引きである。必要に応じて利用されたい。

理解

1. 「第一夜」の色彩表現にはどのような効果があるか、説明しなさい。

【解答例】

- ・「第一夜」…具体的な色彩としては、白、赤（唐紅）、黒、青の四色が登場する。「真っ白な頬」（二二三・3）、「唇の色は無論赤い」（二二三・4）、「真っ黒な瞳」（二二三・8）、「黒目のつや」（二二三・10）、「黒い目」（二二四・1）、「赤い目」（二二四・12）（二二五・12）（二二五・16・17）、「黒い瞳」（二二四・17）、「唐紅の天道」（二二五・14）、「青い茎」（二二六・3）、「真っ白な百合」（二二六・5）、「白い花びら」（二二六・7）。具体的な色彩ではないが、次のような事物も色彩を連想させる。
- 「月の光」（二二五・4・6）、「苔」（二二五・10、二二六・1）。
- ・効果 鮮やかな色彩を配することで、死ぬというのに生気に満ちた女の美しさや時間を示す太陽の鮮烈さ、百合のみずみずしさ等のそれぞれを際立たせ、浪漫的で幻想的な雰囲気醸し出す効果。

【指導上の留意点】黒を基調とし、赤や白と対照させている。「真っ白な頬」の女と「真っ白な百合」との連想により、女が百合となって「百年の約束」を果たすために男の前に転生したと読むこと

ができる。

2. 「第一夜」には「腕組み」する「私」の姿が描かれているが（二二三・2、二二四・4、二二五・11）、どのような意味が表されているのか、説明しなさい。

【解答例】 省略

【指導上の留意点】「腕組み」は物事を考える時の仕草である。第一夜では、考える仕草としてだけでなく、男が何もできずに硬直した状態のまま、一心に集中する姿が見えてくる。一心であるがために時間の長さや思いの深さにまで言及することができよう。

3. 「第一夜」で「百年はもう来ていたんだな」とこの時初めて気がついた。（二二六・12）とあるが、どのようなことによつて気がついたのか、説明しなさい。

【解答例】 省略

【指導上の留意点】墓の石の下から茎が伸び、蕾になりやがて真っ白な百合の花となったことと空の暁の星を目にしたことによつて気がついた。

【指導上の留意点】死んだ女が真っ白な百合の花になって会いに来たから百年経ったと思った以外にも、男が「暁の星」に目をやって百年の時間が過ぎたことに気づいたことにも触れる。

4. 「第六夜」の「見物人」（二二六・4）はどのような人たちか、説明しなさい。

【解答例】 省略

【指導上の留意点】見物人の大半は、明治時代に運慶が仁王を刻んで見物人は皆明治の人間である。辻待ちをしている車夫、尻をはしよって帽子をかぶらずにいる男（無教育な男）、若い男、「自分」という、いわゆる、明治時代の庶民たちである。

参考資料

1 Monkey

川上弘美

本教材の第二段落で触れられているアメリカの公立小学校での経験を書いた筆者の別の文章をあげておく。教材の参考プリントとして、「境目」と合わせて読ませてよい。本文では「わたしはおしっこもらしであった」とさりと書かれているが、その背景には何があったのか、状況を知ることで見えてくるものもある。言語習得が世界認識を可能にすること、またそれができないことの苦しさ、身体的感覚とともに示されている。

最初に喋った英語は、「Hiromi is a monkey.」という文章だった。小さいころ、アメリカにしばらく住んだ、そのときのことである。

地元の公立の学校に通っていた。毎日英語を聞いているのに、ぜんぜん英語を理解できなかった。もともと五歳のとき、学齢が満ちるよりも一年早く、小学校に入学していたのだ。アメリカには飛び級制度があるが、それに準じたのではない。たんに、いんちきをして、一年早く入学したのである。体だけは大きかったのだ、それをいいことに書類をごまかしたのだ。「せっかくアメリカに来たんだから、少しでも長く学校に通わせようと思って」と、母は後年涼しい顔で説明したが、言葉のまったく通じない国で一年早く入学させられたほうは、かわない。

緊張のあまり、わたしは毎日教室でおしっこを漏らすことになる。おしっこというのは、たいそう温かいものである。漏らす瞬間は、ちよつときもちい。きもちいいが、なんともはや情けないものでは

あった。

さっぱりわからない言葉が頭上に飛び交う中で、一日一回のおしっこ漏らしは、もしかすると一種の「わたしは存在してるのよ」という叫びだったのかもしれない。というのも後年に考えた理屈なのであるが。ともかくも、あのころあった「世界をまったく理解できない」という感じは、今でもまざまざとよみがえる。言葉を理解できない者は、世界を理解できないのである。世界は、言葉でかたちづけられているのであった。

理解できない世界の中で、わたしはいつたいていどうやって生きていたのか。日本語で何かを考えていたのか。そうではなかった。そんなことは、できなかった。日本語の中に籠りきるだけの強度は、まだ備わっていないかった。それならば、どうしていたのか。どうもできなかったのだ。どうもできず、ただ座って、まわりの風景を見ていた。見ていることしかできなかった。そのとき、風景に意味はいつさいなかった。どの風景も、あわあわと過ぎてゆくばかりだった。すべては茫然としていた。言語化から思考が始まる、とはしばしば言われることだが、まったくその通りだった。わたしは、赤ん坊が世界を感じるやりかたとおそろく同じやりかたでしか、世界を感じられないのだった。

以降は、赤ん坊と同じみちみちじである。真似ごとから言語の習得が始まる。六〇年代アメリカ西部において、弁当にバナナを持ってきた子供は、「O's a monkey.」と囃されるのが習いだったが、ある日わたしも持ってきたバナナによって囃され、結果、ふつとその囃子ことはを真似した、というわけである。まさにその瞬間から、わたしの英語習得は始まり、世界は艶と色を取り戻した。

「Hiromi is a monkey.」はつまり、わたしをふたたび世界につない

参考資料

授業用プリントとして使える資料や、先生方の教材研究に役立つ資料を掲載しています。

◎ デジタルコンテンツ／参考文献

「デジタルコンテンツ」はオンラインでダウンロードできます。「参考文献」は教材研究および作者研究のための基本文献を列挙し、簡潔な解説をつけました。

デジタルコンテンツ

◆15世紀に描かれた世界図（PDFファイル）

「参考資料」の6でも掲載した、教科書掲載の図版の全体図の画像データ。

参考文献

【生徒への推薦図書】

◆若林幹夫『社会学入門一歩前』（NTT出版 二〇〇七年）

「魔術化する科学技術」所収の評論集。題名の通り社会学を学ぶために必要な考え方が身に付く。

【作者について】

◆若林幹夫『増補 地図の想像力』（河出文庫 二〇〇九年）

「参考資料」1に挙げた文献。講談社選書メチエ（一九九五年）で出版され、河出文庫で再版される際に増補された。

◆若林幹夫『漱石のリアル——測量としての文学』（紀伊國屋書店 二〇〇二年）

社会学的な視点からの漱石論。漱石の小説を自律的な芸術作品として読むのではなく、近代社会の特質を刻印した「測量図」として読むことに眼目がある。漱石の作品を授業で展開するとき参考に

【教材のテーマについて】

◆山本義隆『磁力と重力の発見 1 古代・中世』『磁力と重力の発見 2 ルネサンス』『磁力と重力の発見 3 近代の始まり』（み

すず書房 二〇〇三年）

この三冊は可視化されない力である磁力と重力がどのように発見されるに至ったのかを魔術や呪術など様々な言説を比較検討しながら明らかにした壮大な物理学史である。古代ギリシャから始まりニュートンに至るまでの展開がダイナミックに描かれる。理系の本であるが、歴史学の成果も取り入れられ極めて文系の記述方法に近い（ちなみに縦書きである）。教科書本文と大いに関係してくるのは第二巻「第15章 後期ルネサンスの魔術思想とその変貌」である。「魔術」がいかに「科学」へと変貌していったのかを知ることができる。文系、理系にとられず根気さえあれば読み通すことが可能である。

その他、山本義隆の著作はこの三冊の続編として「十六世紀文化革命1」「十六世紀文化革命2」（みすず書房 二〇〇七年）があり、興味を湧いたらぜひ読んでほしい。その他「熱学思想の史的展開 熱とエントロピー」全三巻（ちくま学芸文庫）は熱学の歴史に重点を置いた好著。文庫版になり大幅に注の量が増えた。理系（物理学専攻）進学を志す生徒にはおすすめてできる著作である。

◆伊東俊太郎・村上陽一郎・広重徹『改訂新版 思想史のなかの科学』（平凡社ライブラリー 二〇〇二年）

簡便に科学史を押さえるならこの一冊。自然科学の発達の歴史が当時の思想背景の中でどのような位置づけにあったのかを示しながら要領よく解説している。高校生からでも十分に読むことができる。

◆村上陽一郎『科学史からキリスト教をみる』（創文社 二〇〇三年）
筆者の講演集。聴衆との質疑応答も含まれている。筆者が提唱する「聖俗革命」をわかりやすく解説している。また現在の環境問題

参考文献

生徒に薦めたい書籍も紹介しています。

教科書掲載の教材をさらに掘り下げる探究活動の参考文献としても役立ちます。

教科書に掲載した教材との比べ読みにも活用できます。

品詞分解(古文)

古文教材には、本文の品詞分解を示しました。文法的に説が分かれているものは下段に示しました。

品詞 名詞以外のすべての語に品詞を示しました。

付属 CD-ROM 品詞分解・現代語訳のデータは、付属 CD-ROM にも収録しています。

返歌	いかに。	かか	る	やう	や	は	ある。	と	は	かり	言ひ	を	引	き	放	ち	を	逃	げ
格助引用	格助対象	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意
格助引用	格助対象	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意	係助強意

- 1 断定の助動詞「なり」の連用形「に」に接続助詞「て」のついた形とも考えられる。
- 2 接続助詞で、順接の確定条件を表すとも考えられる。
- 3 2と同じ。
- 4 連体詞とする説もある。

敬語 敬語には敬意の対象も示しました。

活用形 活用のあるものについては、その活用形を示しました。

総ルビ付き本文／現代語訳(古文)

古文教材には、総ルビを付した本文と、現代語訳を掲載しました。

和泉式部、保昌が妻にて、丹後に下りけるほどに、京に歌合ありけるに、小式部内侍、歌よみにとられてよみけるを、定頼中納言たはぶれて、小式部内侍ありけるに、「丹後へ遣はしける人は参りたりや。いかに心もとなくおぼすらむ。」と言ひて、局の前を過ぎられるを、御簾よりなからばかり出でて、わづかに直衣の袖をひかへて、

大江山いくの道の遠ければまだふみも見ず天の橋立

とよみかけけり。思はずに、あさましくて、「こはいかに。かかるやうやはある。」とばかり言ひて、返歌にも及ばず、袖を引き放ちて、逃げられけり。小式部、これより歌よみの世におぼえて来にけり。これはうちまかせての理運のことなれども、かの脚の心には、これほどの歌、ただいまみ出だすべし、とは知られざりけるにや。

和泉式部が、保昌の妻として、丹後国に下っていたところに、京で歌合があった時に、小式部内侍が（歌合の）歌人選ばれて、歌を詠んだのだったが（その時のこと）、定頼中納言がふざけて、小式部内侍が部屋にいたところに、「丹後国にお遣わしになった人は帰って参りましたか。どんなに待ち遠しく思っているのかわかりませんか。」と言ひて、部屋の前を通りになったところ、（小式部内侍は）御簾から半分ほど出て、ちよつと（定頼の）直衣の袖を引き留めて、

大江山……大江山を越え、生野を通って行く道のりが遠いので、まだ（丹後国の）天の橋立に行ってもいませんし、（母からの）手紙も見えておりません。と、歌を詠みかけた。（定頼は）思いがけずに、驚いて、「これはどうしたことだ。こんなことがあるのか、いや、あろうはずがない。」とだけ言ひて、返歌することもできないで、袖を引き離してお逃げになった。

小式部内侍は、これ以降、すばらしい歌人であるという評判が世間に広まったのだ。このことはごく普通の（和泉式部の娘である以上、歌を上手に詠むことは）道理にかなったことではあるが、あの（定頼）脚の心には、これほどの歌を即座に詠み出すことができるとは、おわかりではなかったのだろうか。

総ルビ付き本文 古文教材の本文にはすべて読み仮名を付して示しました。

漢文教材には、総ルビを付した書き下し文と、現代語訳を掲載しました。古典は文脈に即した語句の意味を示しました。古典文法や漢文句法に関することにも触れています。

総ルビ付き訓読

漢文教材の本文には、すべて総ルビ付きの訓読を示しました。

訓読
夫れ禍福の転じて相生するや、其の変見難きなり。近ごろ塞の上の人に、術を善くする者有り。馬故無くして亡げて胡に入る。人皆之を甲ふ。其の父曰はく、「此れ何遽ぞ福ひと為らざらんや。」と。居ること数月、其の馬胡の駿馬を將ゐて帰る。人皆之を賀す。其の父曰はく、「此れ何遽ぞ能く禍ひと為らざらんや。」と。家良馬に富む。其の子騎を好み、墮ちて其の髀を折る。人皆之を甲ふ。其の父曰はく、「此れ何遽ぞ福ひと為らざらんや。」と。居ること一年、胡人大いに塞に入る。丁壮の者は弦を控えて戦ひ、塞の上の人、死する者十に九なり。此れ独り跛の故を以つて、父子相保り。故に福ひの禍ひと為り、禍ひの福ひと為るは、化極むべからず、深測るべからざるなり。

現代語訳

そもそも不幸と幸福とが入れ替わり互いを生み出すことは、その変化が見極めにくい。近ごろ辺境のとりで近くのの人に、占いの術に巧みな者がいた。（ある時この人の）馬が理由もなく逃げ出して胡の領地に入り込んでしまった。人々はみなこのことを気の毒がってお見舞いにかけてきた。（ところが）その老人が言うことには、「このことがどうして幸福（のきっかけ）にならないことがあるでしょうか。」と。数か月たって、その馬が胡の駿馬を引き連れて帰ってきた。人々はみなお祝いを言った。（ところが）その老人が言った、「このことがどうして不幸（のきっかけ）になり得ないだろうか。」と。（老人の）家は良い馬をたくさん持つようになった。その息子は乗馬が好きだったが、落馬して腿の骨を折ってしまった。人々はみなこのことをお見舞いにかけてきた。その老人は言った、「このことがどうして幸福（のきっかけ）にならないことがあるでしょうか。」と。一年たって、胡の人が大挙してとりでの中に攻め込んで来た。健康な働き盛りの男たちは弓を引いて戦い、とりで近くの人たちで、戦死した者が十人中九人に及んだ。ただこの（老人の家の）息子だけは足が不自由であったので、親子共々生き延びた。だから幸福が不幸に転じ、不幸が幸福に転ずることは、その変化を知り尽くすことができず、その道理の奥深さを測り知ることはできないのである。

叙述と注解／学習のポイント

・夫（も）も（も）（提示）
いわゆる発語の語である。
・何遽（なんそ）乎（や） どうして（どう）だろうか（いや（くない））（反語）

・独（ひとり）ただ（だけ）（限定・強意）
・不可（い）可（べ）く（べ）（できない）（不可能）

【二六〇ページ】
1 夫 文頭にあって、以下の語を導く。いわゆる発語の役を果たす。そもそも、およそ、な

発問例／脚問の解答例

【二六〇―二六一ページ】
発「善術者」の親子がともに命を落とさずにすんだ理由を答えよ。
答 ・父は老人であったため。
・子に落馬のために腿の骨を折り、

どと訳す。

1 転而相生 この場合「転」は、（その位置が）入れ替わる意である。一つの事象から派生する異なった面（ここでは「禍福」が、時に応じて姿を入れ替えて現れることを言うのである。「相生」とは、互いに生み出す、という意味。「五行相生」説（木は火を、火は土を、土は金を、金は水を、水は木を生ずる）の「相生」と同じ意味。

1 難見 「難」は、後に動詞句をとまない「しにくい」の意を表す。語感としては、ほとんど不可能、の意になる。

1 近 時間的に離れていないようすを表す。「ちかく」と読んでもよい。この「近」を含む「近塞上之人」は、書き下しの仕方としてこの他に、「塞上に近きの人に」も可能。しかし、「塞上」は、塞の近く（そば）に、の意であるから、この「近」を距離的に離れていないこととして取る必然性はあるまい。

1 塞上之人 ここで言う「塞」は、対異民族戦用に築かれた砦の意。砦は同時に、それが築かれる国境近辺や、辺境地域をさす。「塞外」と言えば、国境の外、の意味になる。「上」は、近く、ほとり、そば、の意。

2 善術 「善」は、「よクス」と読み、巧みである、の意。「術」とは、現在では技芸一般を表すが、ここでは、暦数や卜筮・占星などの術数をさしている。訳語としては、占いの術に巧み、ぐらいが適当であろう。

2 亡 「逃亡」の「亡」と同様、逃げる、の意。

2 胡 北方や西方の異民族、またはその地域の総称。時代によってさし示す民族は異なる。「淮南子」が書かれた前漢では、匈奴をさすことが一般的。また唐の時代には、ペルシアなどの西域人をさすのに用いられた。

3 弔 本来は、死者を悼んだり、死者の身内にお悔やみを言うことを意味するが、ここでは、同情する、お見舞いをする、の意。

3 父 読みは「ホ」。目上の男性に対する称。ここでは「老人」と訳した。

3 何遽乎 「何遽」は二文字で「なんぞ」と読む。句末の助字「乎」と呼応して疑問・反語形を作る。疑問であるか反語であるかの区別は、基本的に文脈に沿って行わなければならない。単純に反語形であると指摘するだけでは読解力は深まらない。この「何遽乎」ばかりではなく、疑問の助字や疑問代名詞・疑問副詞などは、疑問か反語か詠嘆かという区別が、形式上からはしにくい。本来、疑問とは事物を単純に受け入れずに疑念を抱く行

片足が不自由であったため。

↑ 発 「（人間万事）塞翁が馬」と同じ意味の慣用句を答えよ。
答 禍福は糾（あざな）える縄のごとし
【二六〇ページ】
発 「転而相生」（二六〇・一）とは、どのような意味か。
答 禍が福を生み出し、福が禍を生み出し、次々と入れ替わること。

発 「何遽」（二六〇・三）の意味を漢和辞典で調べ、ノートに書きなさい。
答 「どうして（どう）するか」（疑問・反語）。

解説 教科書本文は「何遽乎（なんぞ）や」と疑問の助字が加わった形となっている。「なんぞ」と読んで疑問・反語を表す語は多く、「何・胡・奚・曷・寧・庸」などがある。また、これらの語とともに、「乎・也・哉・邪・耶・与・夫・歟」など疑問の助字を文末に用いる場合があることも理解させたい。

標準問題

教科書の文章を利用した問題です。

第6章

魔術化する科学技術 (標準テスト)

原寸はB4サイズ

発展問題

教科書の教材や作者に関連した文章を利用した問題。
古典教材もご用意しています。

〔二〕次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(50点)
道具や機械、技術は科学的な知識と結びつくことで、その予測可能なものから、道具も機械も技術も、一定程度の**確実な結果や効果を得るためのもの**であるという意味では、世界を予測可能で操作可能なものにするものだった。一定の**使い方をすれば誰でもが利用できる**、一定の**成果が上がる**ことが、道具や機械や技術の本質なのだ。ある目的に対して、リスクやコストを少なくし、**効率をより上げる**という意味で、道具や機械や技術は「合理的」である。そして過去二世紀以上にわたって、道具や機械や技術は科学と結びつくことで、この合理性を高めてきたのである。

ところで、原始や古代の人類にとって、世界は意のままにならない不透明さと、魔物やセイレイが跳梁跋扈する不気味さに満ちていた。そうであるがゆえにそこでは、その不透明さと不気味さを消し去る術、すなわち技術としての呪術や魔術、宗教が必要とされたのだ。だから呪術も魔術も宗教も、近代科学技術の側から見てそれらがいかに不透明で不気味なものに見えようと、それらに固有の透明さと理解可能性をもたらすものだったのだ。技術やそれを基礎づける科学的知識を蓄積し、道具や機械とそれらを使いこなす合理的思考をもつ現代人にとっての世界は、呪術や魔術、宗教がもたらす透明さと理解可能性を、誤った透明さ、つまり誤謬として退け、理論的な仮説と実証にもとづく別種の透明な理解可能性と操作可能性で置き換えていったのである。

だがしかし、ハイデガーの言う意味での「不気味さ」は、こうした「合理性」をもつ科学技術が、その合理性の追求を通じてさらに新たな予測不可能性を生み出してしまおうことを示している。科学にもとづく技術の中にも、それを生み出した科学にはあらかじめ予想ができなかったり、今のところ理解することができなかったりする不透明な領域があり、科学技術の発展と高度化は、そのほの暗い領域を拡大させてゆく。私たちの社会は科学技術によってこれまでのどんな社会よりも明晰で透明な理解可能性を手に入れたように見えるけれど、そのことによつて同時に、これまでのどんな社会よりも巨大で強力な力とともにある不透明で理解不可能な領域を抱え込んだのだ。

そうだとすれば私たちは、原始や古代の人びとに比べて透明な理解可能性を手には必ずしも言えなくなる。操作可能性については、確かに向上したかもしれない。ナイフのような単純な道具を使う技術は原始や古代の人びとに劣るかもしれないが――石器の使用法についてならなおさらだ――、日々の暮らしの中で私たちは数多くの道具や機械や装置を使いこなし、その**利便性を享受している**。だがしかし、そうした道具や機械や装置がどのように作られ、どのように動いているのかを、私たちの多くは理解していない。科学技術の発展と社会への応用、浸透は、「A」を増大させる。通常の暮らしの中で、私たちはこの「わからなさ」の領域に目を向けることは普通でない。だが、いったんそこに目を向けるなら、現代の社会が個々の人びとにとっては見通すことのできない不透明さをもつた科学と技術の上に立っていることがわかるだろう。世界を透明で合理的なまなざしの下に理解し、操作することを可能にしてきた科学と技術は、専門家ではない個々人にとっては不透明だけれども役に立つ、まるで魔術のような領域を広げていったのである。

こうした不透明さの中で、そもそもは「仮説」、つまり「仮の説明」にすぎず、実証的な手続きによつて確認できないことについては「B」をカンジユしなくてはならない科学とその応用である技術が、来るべき将来にはいずれすべてを説明し、解決することができる「究極の真理」であるかのように受けとられたり、語られたりすることになる。科学によつて何でもわかるようになると思え、技術によつて何でも解決できると考えるとき、人は、科学が受け入れなくてはならない「わからなさ」に耐えることができなくなつて、「何でもわかり、何でも解決できる」という魔術や神話のような力を科学や技術の中に見出だそうとするのだ。そう、現代の社会で科学は魔術化されるのである。

標準問題

観点別評価に対応したアイコンを各問いに付しました。

- 問一 傍線部①～③のカタカナは漢字に改め、漢字には読みを記しなさい。(各2点) [知技]
- 問二 傍線部①の語句の意味を簡潔に記しなさい。(4点) [知技]
- 問三 傍線部②は何をさしているか。一〇字以内で答えなさい。(4点) [思判表]
- 問四 傍線部③とはどのようなことか、六〇字以内でわかりやすく説明しなさい。(8点) [思判表]
- 問五 空欄Aにあてはまる最も適当な語句を次から選び、記号で答えなさい。(6点) [思判表]
- (ア) 便利だが理解できない領域
- (イ) 享受しているが利便を感じない領域
- (ウ) 合理的だがあくまでも仮説である領域
- (エ) 操作可能性が向上しながらも理解できない領域
- 問六 傍線部④とはどのようなことか。最も適当な説明を次から選び、記号で答えなさい。(6点) [思判表]
- (ア) 一般の人々は機械や装置がどのように作られているのかを理解していないにもかかわらず、やみくもに科学を信用することで、享受する範囲を広げてきた、ということ。
- (イ) 専門家が開発しわれわれの生活が便利になったにもかかわらず、われわれは彼らに感謝することなく科学技術を享受している、と

標準——魔術化する科学技術 (1)

には一部省略した
を中心とする狭い
もっていない。彼
味する言葉がない
の空間は社会的に
的知識の欠如や自
か「正しい地図」
いても、これらの地
かしているのかとい
つて示している「
はすべて、地球表
に言及する対象を
体的な「線」をも
意味で私たちの地図
地上に直接の言及
イメージされてい
なでつちあげ」に
がされた領域が想像
地図が可視化する
越性や想像性をも
当該の人間集団の
くんだ超越的な
つ想像的な全域と
の全域を画像化す
し言説化すべく動
を、「世界の想像

魔術化する科学技術

年 組 番号 名前

/40

要約プリント

授業終了時に提出させるプリントです。原稿用紙に要約を、
枠内には構成図を書き込めるようになっていました。

魔術化する科学技術

年 組

●要旨(二〇〇字)

Blank lined area for writing the summary (要旨).

●構成図

Blank box for drawing the structure diagram (構成図).

●評価

1. 書き方

- ①正しい表記がなされているか。(A B C)
②適当な表現で書かれているか。(A B C)
③字数制限の九割以上は書かれているか。(A B C)

2. まとめかた

- ①主張がとら
②論の構造が

小テスト問題集

漢字・語句／古語・古典文法／訓読・漢文句法などの確認用問題プリントです。

Table with 10 columns of questions and answers related to the title 'Magical Science and Technology'.

評価

自己評価ができるチェックリストが入っています。

オンライン指導資料 漢文編集システム

指導書付属CD-ROMを通して、各種指導資料、教科書紙面PDFがダウンロードできます。漢文編集システムで、漢文の問題作成も手軽にできます。

「児のそら塚」重要語ワークシート

年	組	番
語	ページ	行
つれづれ	一九	1
わろし	一九	3
おどろかす	一九	6
おどろく	一九	7
いらふ	二〇	1
念ず	二〇	4
なこそ	二〇	6
あな	二〇	9
わびし	二〇	9
すべなし	二二	1

「重要語ワークシート」
予習や自学自習に便利。

「サイエンスの視点、アートの視点」重要語句ワークシート

年	組	番
語句	ページ	行
相反	一六	1
普遍	一六	2
偶然	一六	2
解釈	一六	7
排除	一六	8
対稱	一六	12
変種	一七	6

「実践」用ワークシート
（「現代の国語」「言語文化」）
アクティブ・ラーニングの実践に最適。

① 左の「大江山」の吹き出しの空欄にセリフを書き込んでみよう。

② 右の「大江山」の吹き出しの空欄にセリフを書き込んでみよう。

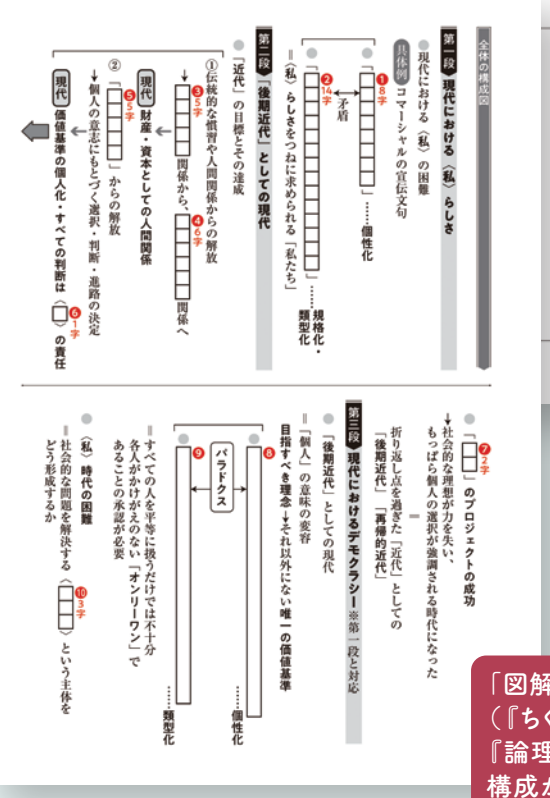
③ ①②の両コマ漫画を深く読み、工夫したところを書こう。

④ ①②の両コマ漫画を深く読み、工夫したところを書こう。

能力五角形を作ろう

右のような「能力五角形」を作った理由を書こう。

「課題用ワークシート」
言語活動の課題に適宜ご用意しました。



「図解穴埋めシート」
（『ちくま 現代の国語』『現代の国語 改訂版』『論理国語 改訂版』）
構成がコンパクトにまとまっています。

漢文編集システム（「言語文化」）

Wordで漢文を
編集することができます。

漢文編集システム

漢文編集
文字修飾
白抜きボックス

新編作成
日本文挿入
漢文コピー

漢文編集画面のスクリーンショット

昔、男、片田舎に住みけり。

男、宮仕へしにとて、

別れ惜しみて行きにけるま

三年来ざりければ、

古文は、本文と現代語訳のスライド・データをご用意しました。

昔、男、片田舎に住みけり。
昔、ある男が、片田舎に住んでいたのだった。
男、宮仕へしにとて、
男は、「宮仕えをしに（上京する）」と言って、
別れ惜しみて行きにけるままに、
（女と）別れを惜しんで行ってしまったまま、
三年来ざりければ、
三年経っても帰って来なかったの、

「相互評価シート」
発表や創作など、相互評価や自己評価が適当な活動に適宜ご用意しました。

「ルーブリック評価」
教材ごとに、言語活動をどのような視点で評価するかをまとめました。

「〇〇にするならこの人！」を考える
▼作品を見て、「A」とてもよくできている「B」夫ができる「C」の三段階から、当てはまるものを選び、

Table with columns for Unit (Unit 1), Subject (Science perspective, Art perspective), and Rubric criteria (A: Sufficient, B: Satisfactory, C: Effort required).

「観点別評価例」
教材ごとに、「知識・技能」「思考力・表現力・判断力」の評価ポイントをまとめました。

Table titled '観点を別評価例' showing evaluation points for 'サイエンスの視点、アートの視点' across various criteria like 'ことばの思考' and '内容把握'.

趙且伐燕。

蘇代為燕謂惠王曰、

「今者臣来

漢文は、本文・書き下し文・現代語訳のスライド・データをご用意しました。

趙且に燕を伐たんとす。
蘇代が燕のために(趙の) 惠王に言ふことには、
「今者臣来過易水。
「今者臣来たりて易水を過ぐ。
「今し方私が参りますときに易水を通りました。

B5判の書き込み式準拠ノートです。
予習・復習や、授業では扱えなかった教材の自習などに便利です。
※指導書付属CD-ROM内の「オンライン指導資料」にデータが入っています。

第14章

想像力がひろく世界 羅生門

芥川龍之介

教科書 214～226 ページ

◆漢字と語句の確認◆

1 漢字 傍線部の漢字は読みを、カタカナは漢字を答えなさい。

- | | |
|------------|----------|
| ① 丹塗りが剥げる | ⑩ 行く手を塞ぐ |
| ② 紺色の服 | ⑪ 罵る |
| ③ 盗人 | ⑫ 鋼の刃 |
| ④ 町が衰微する | ⑬ 喉元 |
| ⑤ 飢え死にする | ⑭ 侮蔑の表情 |
| ⑥ 憂える | ⑮ 嘲る |
| ⑦ 濁った黄色 | |
| ⑧ 無造作 | |
| ⑨ 語弊がある | |
| ⑫ 天井のシミ | |
| ⑬ ひどいシユウ気 | |
| ⑭ 花瓶に花をさす | |
| ⑮ ミレンを感じる | |
| ⑯ 大マタで歩む | |
| ⑰ ヘイボンな答え | |
| ⑱ ヘビをつかまえる | |
| ⑲ 暗い空モヨウ | |
| ⑳ タヤミが忍び寄る | |
| ㉑ コウテイ的 | |
| ㉒ 天井のシミ | |
| ㉓ ひどいシユウ気 | |
| ㉔ 花瓶に花をさす | |
| ㉕ ミレンを感じる | |
| ㉖ 大マタで歩む | |
| ㉗ ヘイボンな答え | |
| ㉘ ヘビをつかまえる | |
| ㉙ 暗い空モヨウ | |
| ㉚ タヤミが忍び寄る | |
| ㉛ コウテイ的 | |
| ㉜ 天井のシミ | |
| ㉝ ひどいシユウ気 | |
| ㉞ 花瓶に花をさす | |
| ㉟ ミレンを感じる | |
| ㊱ 大マタで歩む | |
| ㊲ ヘイボンな答え | |
| ㊳ ヘビをつかまえる | |
| ㊴ 暗い空モヨウ | |
| ㊵ タヤミが忍び寄る | |
| ㊶ コウテイ的 | |
| ㊷ 天井のシミ | |
| ㊸ ひどいシユウ気 | |
| ㊹ 花瓶に花をさす | |
| ㊺ ミレンを感じる | |
| ㊻ 大マタで歩む | |
| ㊼ ヘイボンな答え | |
| ㊽ ヘビをつかまえる | |
| ㊾ 暗い空モヨウ | |
| ㊿ タヤミが忍び寄る | |

2 語句 傍線部の語句と同じ意味の語句を選びなさい。

- ① とりとめもない
ア まとまりのない イ 意味のない ウ 希望のない
- ② 高をくくる
ア 軽く見積もる イ 高さを測る ウ 気持ちが落ち込む
- ③ 存外
ア 案外 イ 屋外 ウ 言外
- ④ 冷然
ア 落ち着いた態度 イ 冷淡な態度 ウ 嬉しそうな態度
- 3 語句 次の語句の対義語を書きなさい。
- ① 失望する
- ② 平凡
- 4 語句 次の語句を用いて短文を作りなさい。
- ① 大目に見る
- ② 途方に暮れる

教材の舞台・背景や段落の要旨などをまとめる課題です。

漢字や語句などの課題を教材ごとに付しました。

◆段落構成の整理◆

次の空欄に本文中の語句を補いなさい。

●第一の場面(初め～二七・一七)
ある日の①、一人の下人が②の下で、雨やみを待っていた。都は地震や辻風、火事、飢饉などの③の相次いでいた。主人から暇を出された下人には、行く先がなかった。しかし、④になることも、⑤することも選択しかねて、一夜を過ごそうとして、楼の上のぼりはじめた。

●第二の場面(二八・一～三〇・一)
下人が楼にのぼってみると、誰かが火を動かしている。中をのぞくと火をともした⑥を持って、⑦が⑧の髪を抜いている。下人は、六分の⑨と四分の⑩とに動かされて、しばらくは呼吸をするのをさえた。しかし、しだいに下人の心には、⑪に対する⑫が動いてきた。

●第三の場面(三〇・一三～三四・四)
下人が老婆を捕らえて問い詰めたところ、老婆は、⑬をしないために仕方がなくすることは許されるという。それを聞いた下人の心には⑭が生まれた。そして、老婆から⑮を奪い、老婆を蹴倒して楼の梯子をかけ下りた。

●第四の場面(三四・五～終わり)

下人が去った後、老婆は⑯の口まで追っていった。しかし、外には⑰たる夜があるばかりで、下人の行方はわからない。

◆文脈と文意の整理◆
1 「この男のほかに誰もいない」(二二・四・二)とあるが、下人しかいない状況を説明した次の文の空欄を補いなさい。
この二、三年、⑱に災いが続いたため、洛中はさびれ、羅生門を修理する者などいない。すると、荒れ果てたのをよいことに、⑲が棲む。引き取り手のない⑳の捨て場所になる。そのために、人々は羅生門に近づかない。そのうえ、刻限が遅く、いつもいる㉑も一羽もない。ただ、㉒が一匹だけ円柱にとまっている。

2 下人の風貌・特徴がよくわかる、一文の最初の五字を抜き出しなさい。

教材読解のポイントを課題形式でまとめました。

「羅生門」(芥川龍之介)の準拠課題ノート

第1章

古文への扉

児のそら寝

教科書 19～21 ページ

◆文法と語句の確認◆

1 文法 次の表のワ行の空欄に、歴史的仮名遣いを、ア行にならって書き入れなさい。

ワ行		行段	ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段
ア行	あ		ア				
				い			
				イ			
					う		
					ウ		
						え	
						エ	
							お
							オ

2 文法 次の傍線部を現代仮名遣いになおしなさい。

- ①よひのつれづれに
- ②寝ざらむも
- ③待ちゐたるに
- ④うれしとは思へども

⑤いまひとゑ

⑥ただ食ひに食ふ音のしければ

⑦いらへむ

⑧おどろかせたまへ

3 語句 次の語句の意味を書きなさい。

- ①つれづれ(一九・一)
- ②わろし(同・三)
- ③いらふ(二〇・一)

第12章

読みつがれることば

朝三暮四——列子・荘子

教科書 198～199 ページ

読みつがれることば——82

「朝三暮四」の準拠課題ノート

いる表現効果を次から選び、記号で答えなさい。

ア「衆狙」に考える時間を与えなかったことを表す。

イ「狙公」の対策が一時しのぎであったことを表す。

ウ状況の転換を表す一方、本旨に向かう契機としている。

3 「朝三暮四」(「列子」)の本文にある三種類の置き字に抜き出しなさい。また、それぞれの種類を上からえなさい。

ア 強調 イ 疑問

ウ 対象 エ 接続

4 「朝三暮四」(「列子」)について、「衆狙」はなぜ「怒って、「朝四暮三」には喜んだのか。一つ選びなさい。

ア 夕方に実を多くもらうより、朝に多くもらうほうが減らされるのではないと分かったから。

イ 実が減らされるのではないと思つたから。

ウ あとのほうが実は多くもらえると思つたから。

5 「朝三暮四」(「荘子」)の方は、何を言おうとしてい

◆語句と句法の確認◆

1 語句 次の語句の意味を書きなさい。

①將_レ限_二其_レ食_一。(一九八・三)

②勞_レ神明_一為_レ一、而不知_レ其_レ同_一也。(一九九・一)

2 句法 次の句法の意味と種類を、あとから記号で答えなさい。

①能_レ

②將_レ

③何_レ

ア 何を_レするの

イ これから_レしようとする_レしたい

ウ _レできる

◆文脈と文意の整理◆

1 「宋有_レ狙公者。」(一九八・一)を書き下し文にしたときの、①主語、

②述語、③連用修飾語にあたる部分を書きなさい。

①

②

③

2 副詞の①「俄」(一九八・二)と②「俄」(同・五)が本文で果たして

別冊解答つき。

解答

ビューアーの特徴と使い方

クラウド版(1ライセンスあたり10ID)/DVD-ROM版

- ◎ 筑摩書房のデジタル教科書は「みらいスクールプラットフォーム」を採用しています。
- ◎ 解答表示がスムーズに。教科書の「学習の手引き」「脚問」の解答を簡単に表示することができます。
- ◎ 古典教材では教科書から品詞分解・書き下し文・現代語訳を簡単に表示することができます。
- ◎ 朗読音声を聞くことができます。(一部教材)
- ◎ 副読本「読解 古文単語343」「詳説 古典文法 改訂版」「詳説 漢文句法 改訂版」などのリンクも充実。授業が進めやすくなります。



デジタルコンテンツ

学習を助ける資料や、教材理解の参考になるインターネット上のウェブサイト・画像・動画などを表示できます。



道具機能

ふせん・ポインター・タイマー／ストップウォッチがついています。

記録

書き込みなど、紙面に付加した情報は「保存」することができます。

ペン・マーカー

紙面に書きこみができます。色・透明度・太さも自由に設定できます。存」することができます。

図形/スタンプ

紙面に様々なスタンプが押せます。線や丸・四角などの図形を加えることができます。

消しゴム

消す機能は、4つの機能を用意しました。

手引きの解答例

各教材の末尾の手引きについて、問題文をクリックすることで解答例(指導書掲載)を表示できるようにしました。

(1) この文章は、作者が自分の少女時代を回想しながら書いたものである。それは、どのような言い回しから分かるか、考えなさい。
過去推量の助動詞「けむ」を用いたり、「いかに思ひはじめけることにか(六四・七)と当時のことを思い出そうとする内容をほさみ込んでいっているところから、昔のことを回想して書いた文章と知られる。」「十三になる年」という表現があり、作者が十三歳の少女だった頃の話をしていると思われる。自分自身を「東路の道の果てよりも、なほ奥つ方に生ひ出でたる人」と紹介し、その田舎者の少女がどのような生活を送ったか、どのように成長したかをつづる文章である。

- ◎ OSは、Windows、iOs、Chrome OSに対応しています。
- ◎ 利用者端末へのインストール版(Windows 端末のみ)・サーバー配版と、クラウド版をご用意しています。
- ◎ 学校の設備環境に合わせて、ご利用になれます。

訓読・白文

訓読では書き下し文を、白文は返り点のない原文を別タブで表示できます。上からの書きこみも可能です。

古典文法・句法

「古典文法の窓」および「句法のまとめ」には、それぞれ『詳説 古典文法改訂版』『詳説 漢文句法 改訂版』をリンクしました。

古文単語

古文教材の脚注欄に記載した「注意する語句」のうち、『読解古文単語 343』で解説しているものに関して、語句をクリックすることで同書の解説ページを表示できるようにしました。

朗読

朗読音声の用いられている教材において、朗読音声を再生できます。(別売の「朗読CD」もご用意しています。一部、CDには収録されていない作品もあります)。朗読：壤晴彦・竹下景子・李軼倫・津嘉山正種

品詞分解

古文教材において、文章を構成する単語の品詞・活用・活用形などの傍注を付したテキストを別タブで表示できます。上から書き込みも可能です。

板書例

指導書掲載の板書例を適宜表示することができます。

現代語訳

主に古文／漢文教材において、その現代語訳を別タブで表示できます。上から書き込みも可能です。

脚問の解答例

問題文をクリックすることで解答例(指導書掲載)を表示できるようにしました。

指導資料一覧

評価問題・教科書紙面 PDF・実践用ワークシート・ 図解穴埋めワークシート・ループリック評価シートなど、さらに充実しました。

教科書概要

指導書

課題ノート

デジタル教科書

周辺教材

指導資料各種	ちくま 現代の国語 (現国 143-901)	現代の国語 改訂版 (現国 143-902)	ちくま 言語文化 (言文 143-901)	言語文化 改訂版 (言文 143-902)	論理国語 改訂版 (論国 143-901)	文学国語 改訂版 (文国 143-901)	古典探究 改訂版 (古探 143-901 / 古探 143-902)
指導書『学習指導の研究』(A5判)	5分冊+ CD-ROM1枚 +PDF 版 本体 32,000円	4分冊+ CD-ROM1枚 +PDF 版 本体 32,000円	5分冊+ CD-ROM1枚 +PDF 版 本体 35,000円	4分冊+ CD-ROM1枚 +PDF 版 本体 35,000円	5分冊+ CD-ROM1枚 +PDF 版	5分冊+ CD-ROM1枚 +PDF 版	6分冊+ CD-ROM1枚 +PDF 版
教科書本文データ	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word
訓点付き漢文原文データ	—	—	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	—	—	— 太郎・Word・PDF
古文品詞分解	—	—	— 太郎・Word	— 太郎・Word	—	—	— 太郎・Word
漢文書き下し文	—	—	— 太郎・Word	— 太郎・Word	—	—	— 太郎・Word
古文・漢文現代語訳	—	—	— 太郎・Word	— 太郎・Word	—	—	— 太郎・Word
〈テスト・評価問題〉基本問題	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF
〈テスト・評価問題〉標準問題	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF
〈テスト・評価問題〉発展問題	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF
〈テスト・プリント〉小テスト問題	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF
漢文編集システム	—	—	— 太郎・Word	— 太郎・Word	—	—	— 太郎・Word
教科書紙面 PDF	PDF	PDF	PDF	PDF	PDF	PDF	PDF
課題ノートデータ	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word
授業用プリント	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word	— 太郎・Word
実践用ワークシート	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF	— 太郎・Word・PDF
図解穴埋めワークシート	PDF	PDF	—	—	PDF	—	—
授業用図版素材	PDF	PDF	PDF	PDF	PDF	PDF	PDF
古文・漢文本文スライドデータ	—	—	PowerPoint	PowerPoint	—	—	PowerPoint
ループリック評価シート	Excel	Excel	Excel	Excel	Excel	Excel	Excel
学習 link 集	デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ
PDF 指導書分冊『学習指導の研究』PDF 版	PDF	PDF	PDF	PDF	PDF	PDF	PDF
【別売】朗読 CD 3枚組(「ちくま現代の国語」「ちくま言語文化」「言語文化 改訂版」)本体 8,000円 + 税	対応	—	対応	対応	—	—	—
【別売】「文学国語 改訂版」朗読 CD 3枚組	—	—	—	—	—	対応	—
【別売】「古典探究 改訂版」朗読 CD 2枚組	—	—	—	—	—	—	対応
【別売】指導書分冊『学習指導の研究』PDFファイル版(『学習指導の研究』の分売)	CD-ROM1枚 本体 5,000円	CD-ROM1枚 本体 5,000円	CD-ROM1枚 本体 6,000円	CD-ROM1枚 本体 6,000円	CD-ROM1枚	CD-ROM1枚	CD-ROM1枚

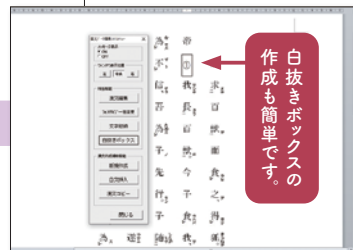
※指導資料関連の一部を破損・紛失した場合は、交換することが可能です。営業部までお問い合わせください。

指導書『学習指導の研究』の内容 全体を次の項目で構成しています。

- 単元の解説
単元のねらい・教材編集の意図・この単元で身につく能力・資質
- 教材のねらい
教材ごとに見開きで指導のポイントを解説
- 学習指導の展開例
教材の指導計画案(配当時間)・指導目標・学習活動・指導上の留意点
- 出典
- 著者(作者)解説
- 要旨(主題)
100字・200字の二種
- 意味段落の要旨
教材の全体を意味段落による表で示し、各段落の内容を要約
- 全体の構成図
教材本文の流れをチャート形式で図解(※現代文教材のみ)
- 叙述と注解
教材本文の語句の解説や、文脈上での叙述の解釈
- 学習のポイント
授業前のトピックの紹介や、各段落の要点を整理
(※現代文教材のみ)
- 発問例/脚問の解答
教科書収録の脚問と、発問例・解答。各問には難易度を表示
- 板書例
授業の要所要所で示す板書例
- キーワード
本文理解に重要なキーワードを解説(※現代文教材のみ)
- 作品解説(鑑賞)
- 参考資料
- 参考文献
- 手引きの解答例・指導上の留意点
- オンライン指導資料
古文・漢文教材には、このほか以下の項目があります。
- 品詞分解 ※古文編
- 総ルビ付き本文 ※古文編
- 総ルビ付き訓読(書き下し文) ※漢文編
- 現代語訳 ※古文編・漢文編

漢文編集システム 漢文の問題作成も手軽にできます。

- ①パソコンに新たなソフトをインストールする必要なし。
(Microsoft Word® を利用した全く新しい編集システム)
- ②返り点や送り仮名などの訓点・傍線・記号などの入力・加工が簡単にできます。
- ③編集システムを利用してオリジナル訓点付き本文も作成できます。
動作環境/対応 OS: Windows 11/対応ソフト: Microsoft Word 2003 以降



詳細は P41 をご覧ください。

オンライン指導資料 指導書『学習指導の研究』を通して、下記のオンライン指導資料が利用できます。

実践用ワークシート

図解穴埋めワークシート

本文スライドデータ

詳細は P40 ~ 43 をご覧ください。

授業をサポートする周辺教材のご案内

朗読 CD 指導資料



『ちくま 言語文化』
『言語文化 改訂版』
共通 朗読CD 3枚組
本体8,000円+税

準備中

『文学国語 改訂版』
朗読CD 3枚組

準備中

『古典探究 改訂版』
(古文編・漢文編)
朗読CD 2枚組

準拠課題ノート一覧 学校専売品



現国143-901
ちくま 現代の国語
課題ノート
B5判/別冊解答付/書き込み式/112頁
本体価格 600円+税/ ISBN978-4-480-91059-2

準備中

論国143-901
論理国語 改訂版
課題ノート
B5判/別冊解答付/書き込み式/予160頁



言文143-901
ちくま 言語文化
課題ノート
B5判/別冊解答付/書き込み式/128頁
本体価格 660円+税/ ISBN978-4-480-91062-2

準備中

文国143-901
文学国語 改訂版
課題ノート
B5判/別冊解答付/書き込み式/予144頁



現国143-902
現代の国語 改訂版
課題ノート
B5判/別冊解答付/書き込み式/96頁
本体価格 600円+税/ ISBN978-4-480-91060-8

準備中

古探143-901・古探143-902
古典探究 改訂版
[古文編・漢文編]
課題ノート
B5判/別冊解答付/書き込み式/予240頁



言文143-902
言語文化 改訂版
課題ノート
B5判/別冊解答付/書き込み式/128頁
本体価格 660円+税/ ISBN978-4-480-91063-9

補助教材集

ちくま文学講読〈初級編〉 監修 東京大学 安藤 宏 日本大学 紅野謙介

A5判/128頁/本体560円+税/ ISBN 978-4-480-91091-2

文学の世界を広げる準教科書。1年生でもっと文学的文章を生徒に触れさせたい先生方に!

指導用資料(冊子) 評価問題・本文データ(CD-ROM)付*指導資料も完備(別売)*学校専売品
A5判/368頁/本体7,000円+税/ ISBN 978-4-480-90584-0

ちくま文学講読〈上級編〉 監修 東京大学 安藤 宏 日本大学 紅野謙介

A5判/256頁/本体900円+税/ ISBN978-4-480-91740-9

文学の世界を深める準教科書。2・3年生で必須の文学的文章を扱いたい先生方に!

指導用資料(冊子) 評価問題・本文データ(CD-ROM)付*指導資料も完備(別売)*学校専売品
A5判/792頁/本体9,000円+税/ ISBN 978-4-480-91744-7

ちくま古典講読 監修 青山学院大学 高田祐彦 山形大学 三上英司

定番の古文・漢文教材を精選した準教科書。2・3年生の2単位古典科目に! **2026年秋刊行予定**



指導者用デジタル教科書 指導資料



ちくま 現代の国語 指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版) 本体価格50,000円+税

ちくま 現代の国語 指導者用デジタル教科書(クラウド版) 本体価格52,000円+税
*1ライセンスあたり 10 ID



ちくま 言語文化 指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版) 本体価格60,000円+税

ちくま 言語文化 指導者用デジタル教科書(クラウド版) 本体価格62,000円+税
*1ライセンスあたり 10 ID



現代の国語 改訂版 指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版) 本体価格50,000円+税

現代の国語 改訂版 指導者用デジタル教科書(クラウド版) 本体価格52,000円+税
*1ライセンスあたり 10 ID



言語文化 改訂版 指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版) 本体価格60,000円+税

言語文化 改訂版 指導者用デジタル教科書(クラウド版) 本体価格62,000円+税 *1ライセンスあたり 10 ID



論理国語 改訂版 指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版)

論理国語 改訂版 指導者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 10 ID



文学国語 改訂版 指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版)

文学国語 改訂版 指導者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 10 ID



古典探究 改訂版 [古文編・漢文編] 指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版)

古典探究 改訂版 [古文編・漢文編] 指導者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 10 ID

デジタル教科書関連書 次の副読本は、筑摩書房版デジタル教科書に関連づけられています。



詳説 古典文法 改訂版
井島正博 編著 伊藤博美・仲島ひとみ 著
*指導資料・補充問題データCD-ROM
A5判/別冊解答付/176頁/
本体680円+税/
ISBN 978-4-480-91737-9 学校専売品



詳説 漢文句法 改訂版
三上英司 編著 石村貴博・大橋賢一・泊 功 著
*評価問題データCD-ROM
A5判/別冊解答付/224頁/
本体700円+税/
ISBN 978-4-480-91738-6 学校専売品

詳説 古典文法 改訂版 準拠 学習ノート
『詳説古典文法 改訂s版』編集委員会 編著
B5判/別冊解答付/64頁/
本体500円+税/
ISBN 978-4-480-91092-9 学校専売品

詳説 漢文句法 改訂版 準拠 学習ノート
北島大悟 編著
B5判/別冊解答付/48頁/
本体500円+税/
ISBN 978-4-480-91093-6 学校専売品

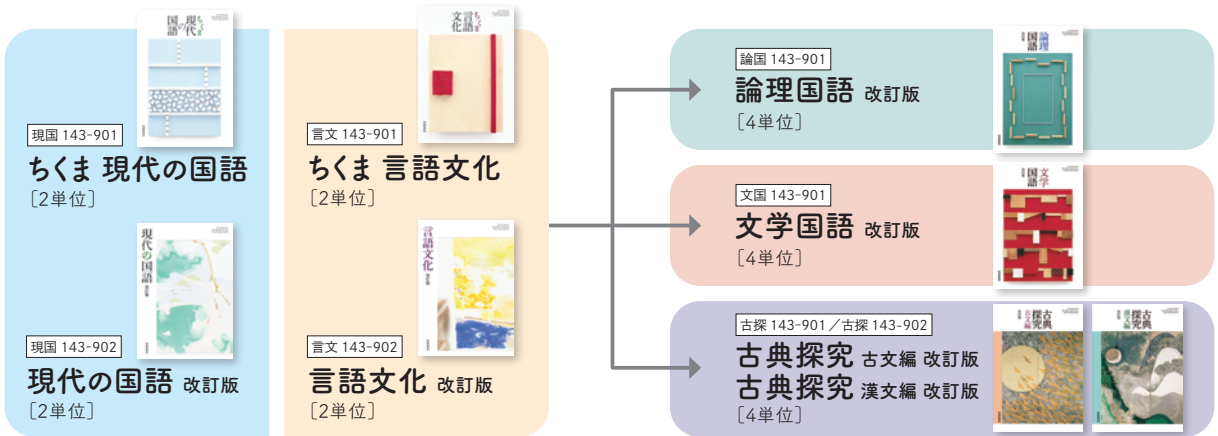


10のグループで覚える
読解 古文単語343
村田正純・吉田 光 著
*自動問題作成システム(Web版)
B6変型判/256頁/
本体900円+税/
ISBN 978-4-480-91735-5

1年次

2年次

3年次



編集委員一覧

太字は筆頭編集委員
以下 50音順

『ちくま 現代の国語』『ちくま 言語文化』

『現代の国語 改訂版』『言語文化 改訂版』編集委員会

【現代文】

安藤 宏(東京大学名誉教授)／**紅野謙介**(日本大学名誉教授)
門屋 敦(東大寺学園中・高等学校教諭)【「ちくま」版のみ】／
河野龍也(東京大学准教授)【「ちくま」版のみ】／五味洸典嗣(早稲田大学教授)
清水良典(文芸評論家・愛知淑徳大学名誉教授)／
関口隆一(筑波大学附属駒場中・高等学校教諭)／橘 直弥(灘中学校・高等学校教諭)
仲島ひとみ(武蔵野大学特任教授)【改訂版のみ】／服部徹也(東洋大学准教授)【「ちくま」版のみ】
松田顕子(立教新座中学校・高等学校教諭)【「ちくま」版のみ】／
吉田 光(郁文館中学校・高等学校教諭)

【古典】

高田祐彦(青山学院大学教授)／**三上英司**(山形大学教授)
井島正博(東京大学名誉教授)／大橋賢一(北海道教育大学旭川校教授)
千野浩一(筑波大学附属駒場中・高等学校教諭)／吉田幹生(成蹊大学教授)

『論理国語 改訂版』『文学国語 改訂版』編集委員会

安藤 宏(東京大学名誉教授)／**紅野謙介**(日本大学名誉教授)
門屋 敦(東大寺学園中・高等学校教諭)／河野龍也(東京大学准教授)
五味洸典嗣(早稲田大学教授)／清水良典(文芸評論家・愛知淑徳大学名誉教授)
関口隆一(筑波大学附属駒場中・高等学校教諭)／橘 直弥(灘中学校・高等学校教諭)
中谷いづみ(二松学舎大学教授)／服部徹也(東洋大学准教授)
松田顕子(立教新座中学校・高等学校教諭)／
森 大徳(筑波大学附属駒場中・高等学校教諭)／吉田 光(郁文館中学校・高等学校教諭)

『古典探究 改訂版』編集委員会

高田祐彦(青山学院大学教授)／**三上英司**(山形大学教授)
東 俊也(武蔵高等学校中学校教諭)／井島正博(東京大学名誉教授)
大橋賢一(北海道教育大学旭川校教授)／小田健太(早稲田大学高等学院教諭)
木下華子(東京大学准教授)／千野浩一(筑波大学附属駒場中・高等学校教諭)
吉田幹生(成蹊大学教授)

「教科書調査の観点」のほか、シラバスなどの資料は、
筑摩書房の教科書サイト「ちくまの教科書」からダウンロードできます。
<https://www.chikumashobo.co.jp/kyoukasho/>

 筑摩書房



ちくましょぼう
筑摩書房

〒111-8755 東京都台東区蔵前 2-5-3

●ご注文・見本の請求 営業部 / tel. 03(5687)2680

●内容に関するお問い合わせ 編集部 / tel. 03(5687)2674